

ライフセービング概論

ライフセービングに関わる各種数値データ

JLAアカデミー本部

作成日：2022年10月

JLAの最大のミッションとは？

水辺の事故ゼロ

水辺の事故の現状は？

日本の溺水事故の現状の整理

■ 溺水とは？

・ Drowning is “The process of experiencing respiratory impairment from submersion/immersion in liquid”. Where that impairment leads to death, we note that the person has drowned.

溺水とは、“液体への潜水/没入から呼吸障害を起こす過程”である。この呼吸障害によって死亡した場合、我々は人が溺死したと認識する。

(DROWNING PREVENTION STRATEGIES, ILS, 2008より)

・ 溺水と溺死

傷病者の身体全体や気道入口部(口腔・鼻腔)が液体に浸かって呼吸障害を生じた状態、及びその過程を溺水(drowning)という。「浸漬:しんせき

(submersion)」とは体全体が液体に沈んで没した状態、「浸水(immersion)とは気道入口部が液体に浸かっている状態をいう。言い換えれば、溺水とは浸漬や浸水によって窒息することである。溺水によって死亡することを溺死という。

(改定第9版救急救急士 標準テキスト へるす出版 2015より)

溺水に関するデータ

8,999

この数字は何？

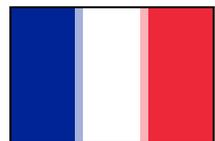
- WHOのglobal report on drowning 2014による日本の溺水死者数（2011年）
- ロシア（11,981人）について**世界第2位**

注）自殺者含む

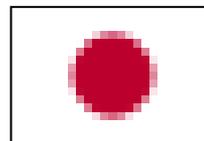
V90	溺死又は溺水を生じた船舶事故
V92	船舶事故を伴わない、水上交通機関の関係した溺死及び溺水 (W65-W74) 不慮の溺死及び溺水
X71	溺死及び溺水による故意の自傷及び自殺
X92	溺水による加害にもとづく傷害及び死亡
Y21	溺死及び溺水、不慮か故意か決定されないもの

日本の溺水事故の現状の整理

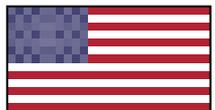
溺死者数（対10万人）国際比較（WHO2014）*2008年



フランス 1.6人



日本 3.2人



アメリカ 1.2人*



カナダ 1.2人

豪州 1.4人



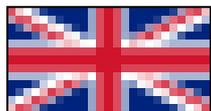
イタリア 0.7人

韓国 2.6人



ドイツ 0.6人

インド 5.9人*



イギリス 0.8人

中国 5.7人*

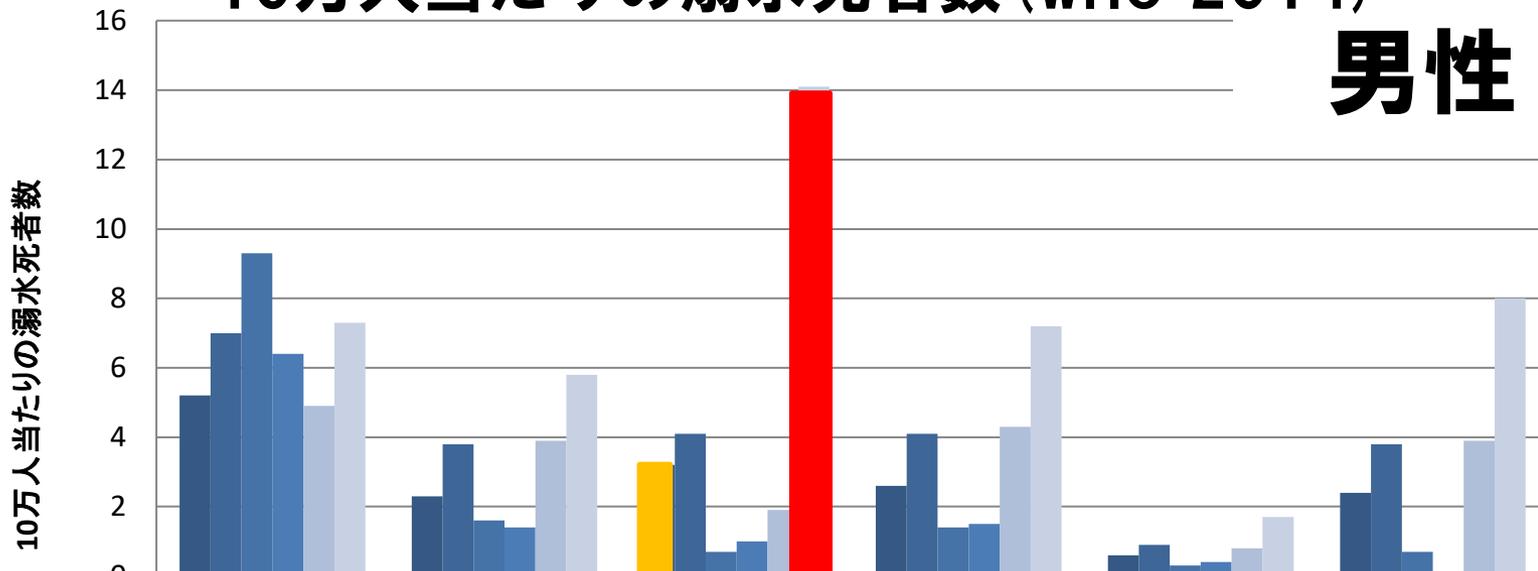
タイ 7.3人

data: World Health Organization「WHO Global Report on Drowning」(2014)より作成

日本の溺水事故の現状の整理

10万人当たりの溺水死者数 (WHO 2014)

男性



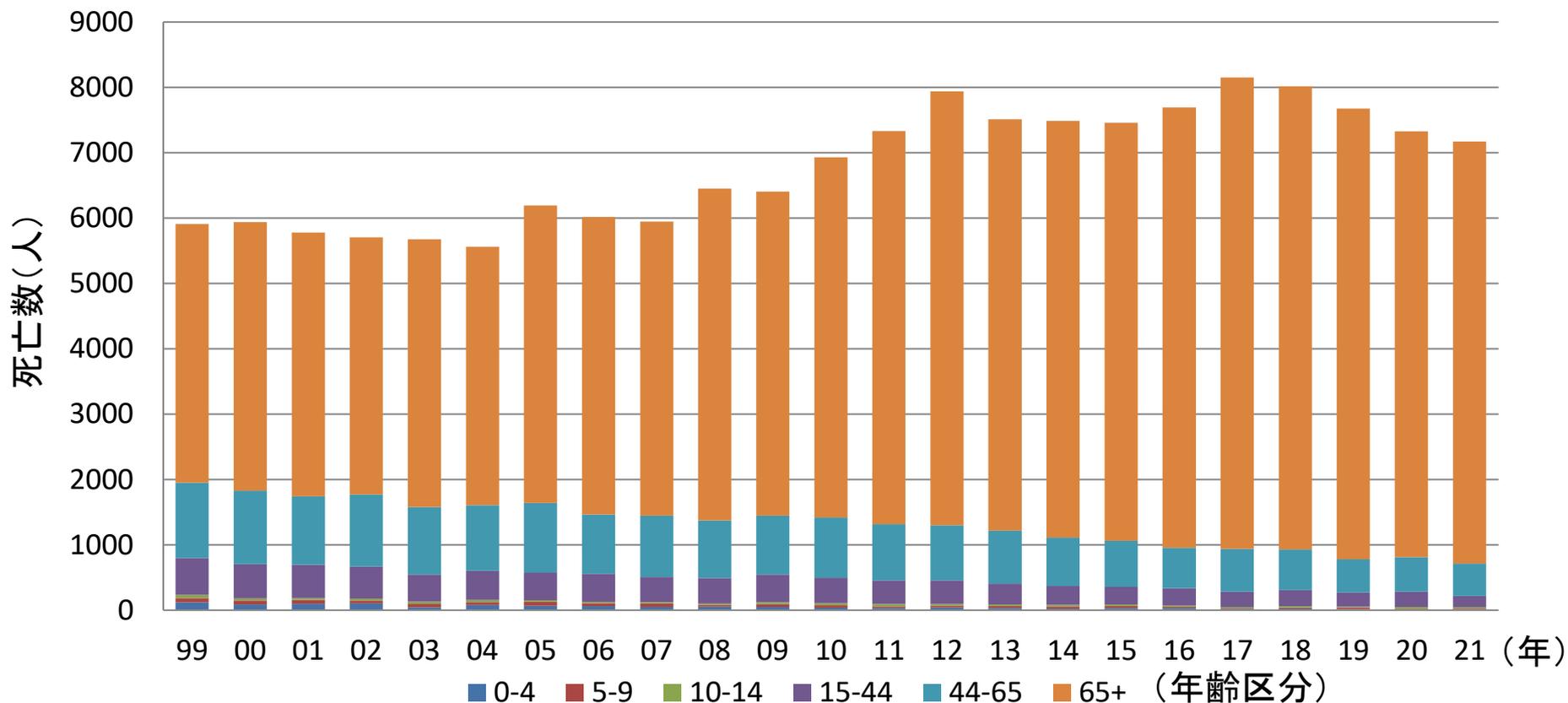
	WORLD	HIGH-INCOME COUNTRIES	Japan	Republic of Korea	Germany	Finland
All Ages	5.2	2.3	3.2	2.6	0.6	2.4
MALES All Ages	7	3.8	4.1	4.1	0.9	3.8
MALES 5-9	9.3	1.6	0.7	1.4	0.3	0.7
MALES 10-14	6.4	1.4	1	1.5	0.4	0
MALES 25-44	4.9	3.9	1.9	4.3	0.8	3.9
MALES 45+	7.3	5.8	14.1	7.2	1.7	8

data: World Health Organization「WHO Global Report on Drowning」(2014)より作成

- 他の高所得国に比べ日本の溺水死者数は高い。
- 特に45歳以上の数値が高い

日本の溺水事故の現状の整理

日本の溺水死者数の年度推移 (厚生労働省)

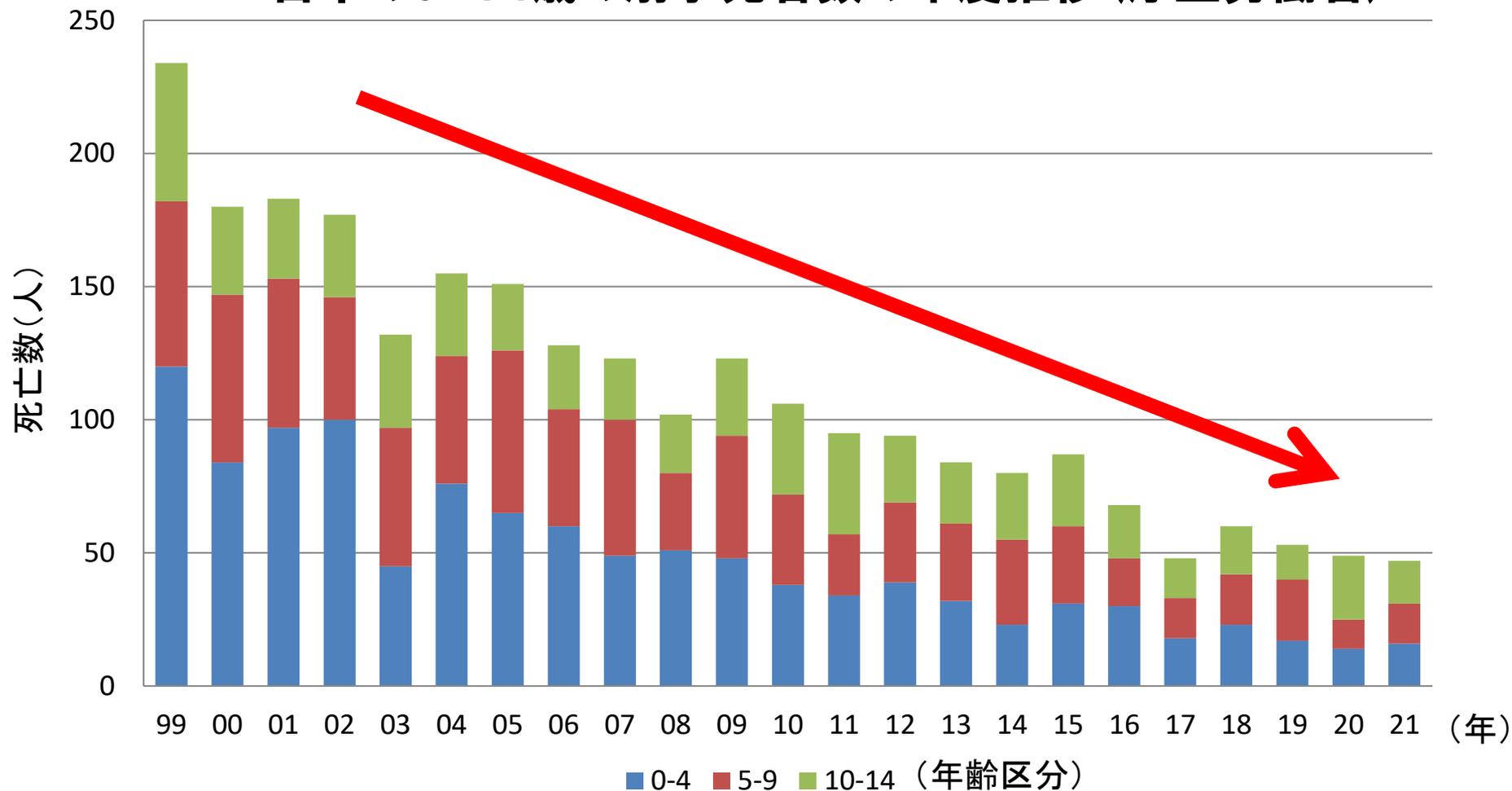


data: 厚生労働省「人口動態統計」より作成

- 年間:**7,184人**(2021年) ※2017年をピークに近年は減少傾向
- 増加傾向である(特に65歳以上).
- 3,931人(1999年) → 6,458人(2021年): 65歳以上
- 66.6%(1999年) → 89.9%(2018年): 65歳以上の割合

日本の溺水事故の現状の整理

日本の0-14歳の溺水死者数の年度推移 (厚生労働省)

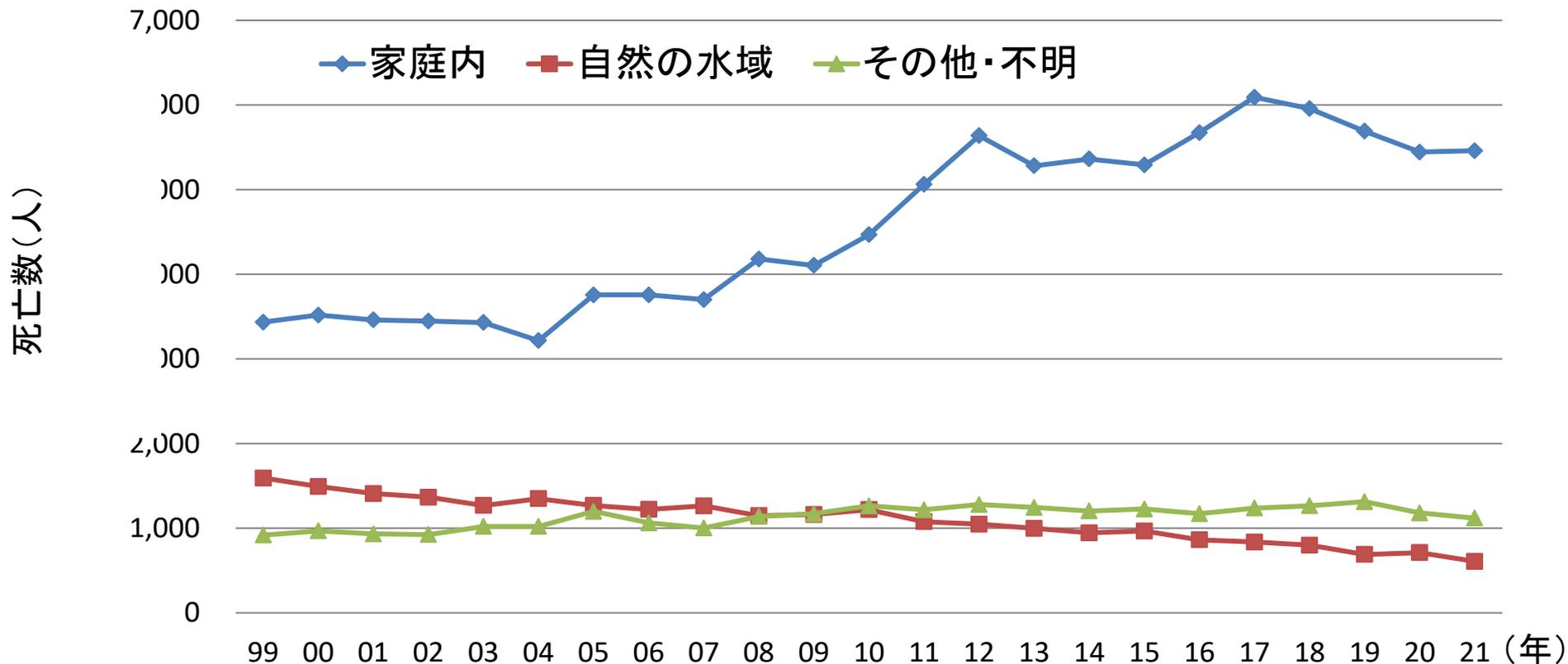


- **減少傾向**
- **234人(1999年) → 47人(2021年) : 0-14歳**

data: 厚生労働省「人口動態統計」より作成

日本の溺水事故の現状の整理

日本の場所別の溺水死者数の年度推移 (厚生労働省)

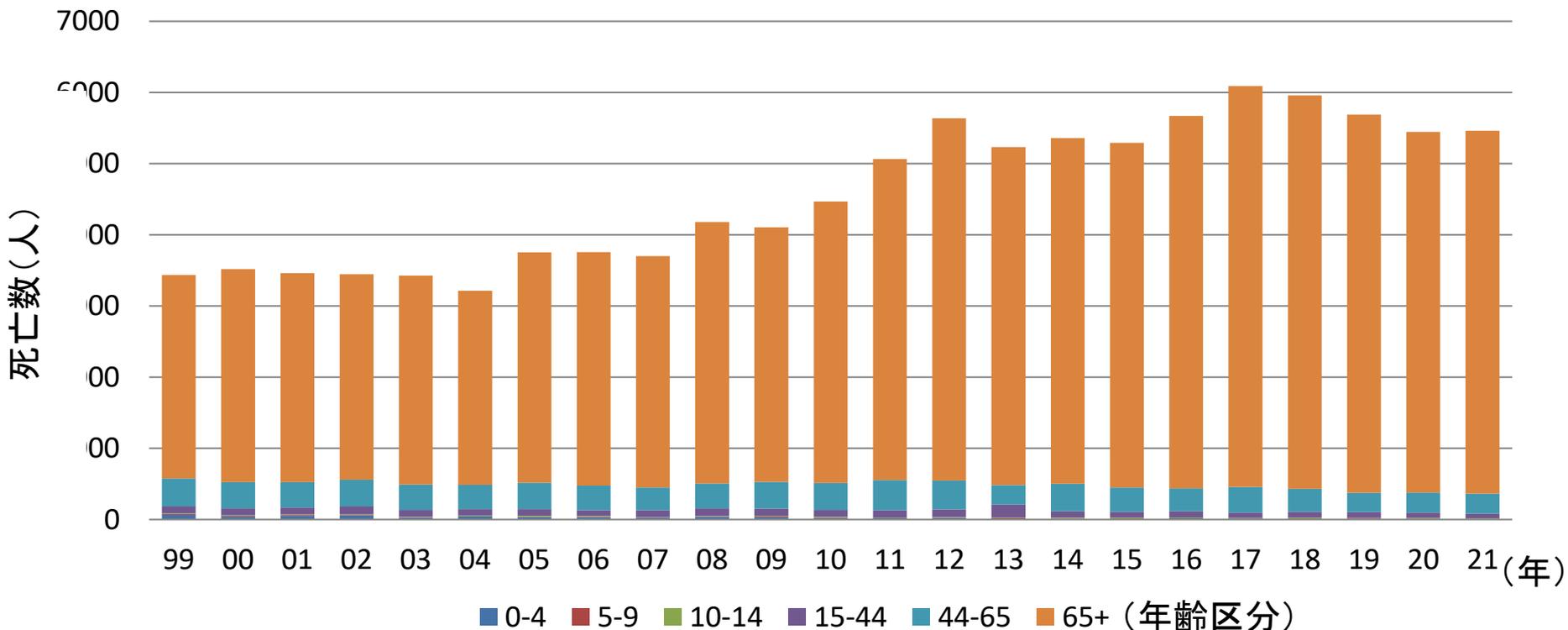


data: 厚生労働省「人口動態統計」より作成

- **家庭内は増加傾向 (※2017年をピークに近年は減少傾向)**
 - 3,434 人 (1999年) → 5,459 人 (2021年)
- **屋外(自然の水域内での及び自然の水域)は減少傾向.**
 - 1,591 人 (1999年) → 606人 (2021年)

日本の溺水事故の現状の整理

家庭内の年齢別溺水死者数の年度推移 (厚生労働省)

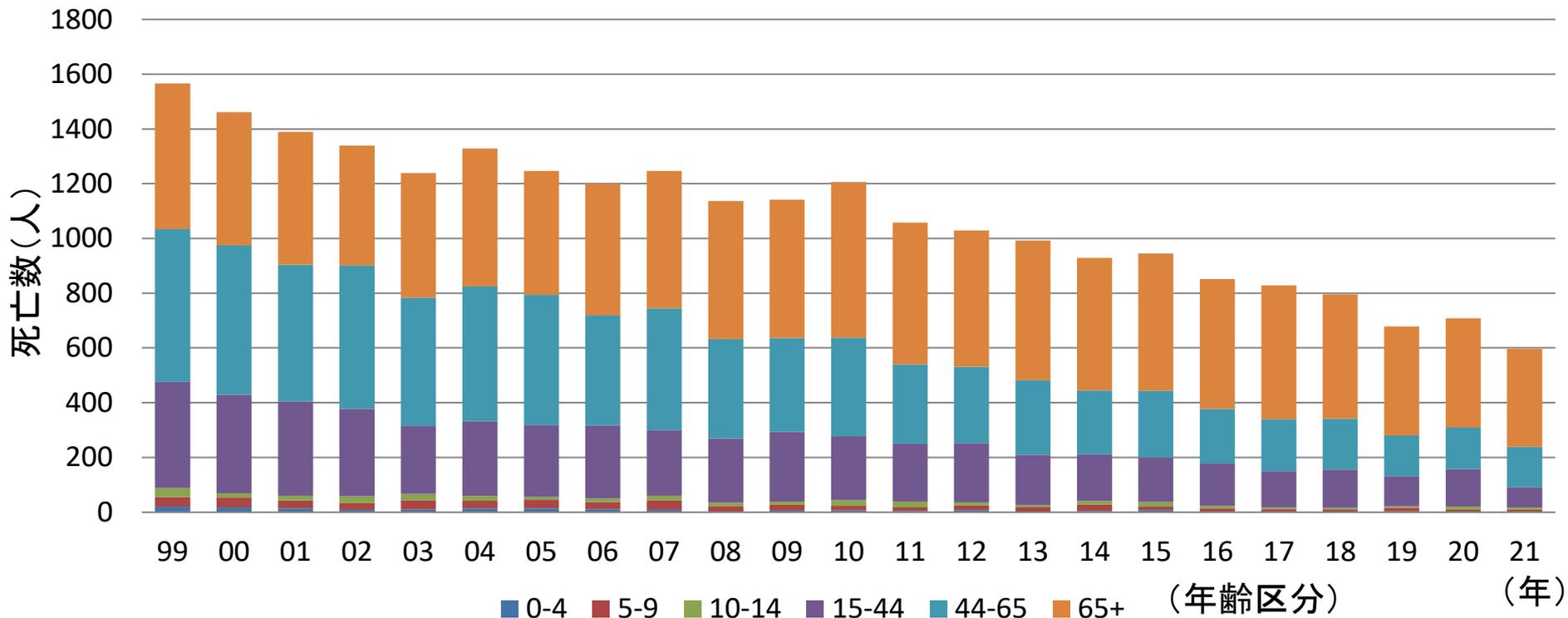


data: 厚生労働省「人口動態統計」より作成

- 65歳以上の割合が高い → 93.4%(2021年)
- 65歳以上が増加傾向
 - 2,856人(1999年) → 5,097人(2021年)
- 65歳以下は減少傾向
 - 577人(1999年) → 362人(2021年)

日本の溺水事故の現状の整理

屋外の年齢別溺水死者数の年度推移 (厚生労働省)

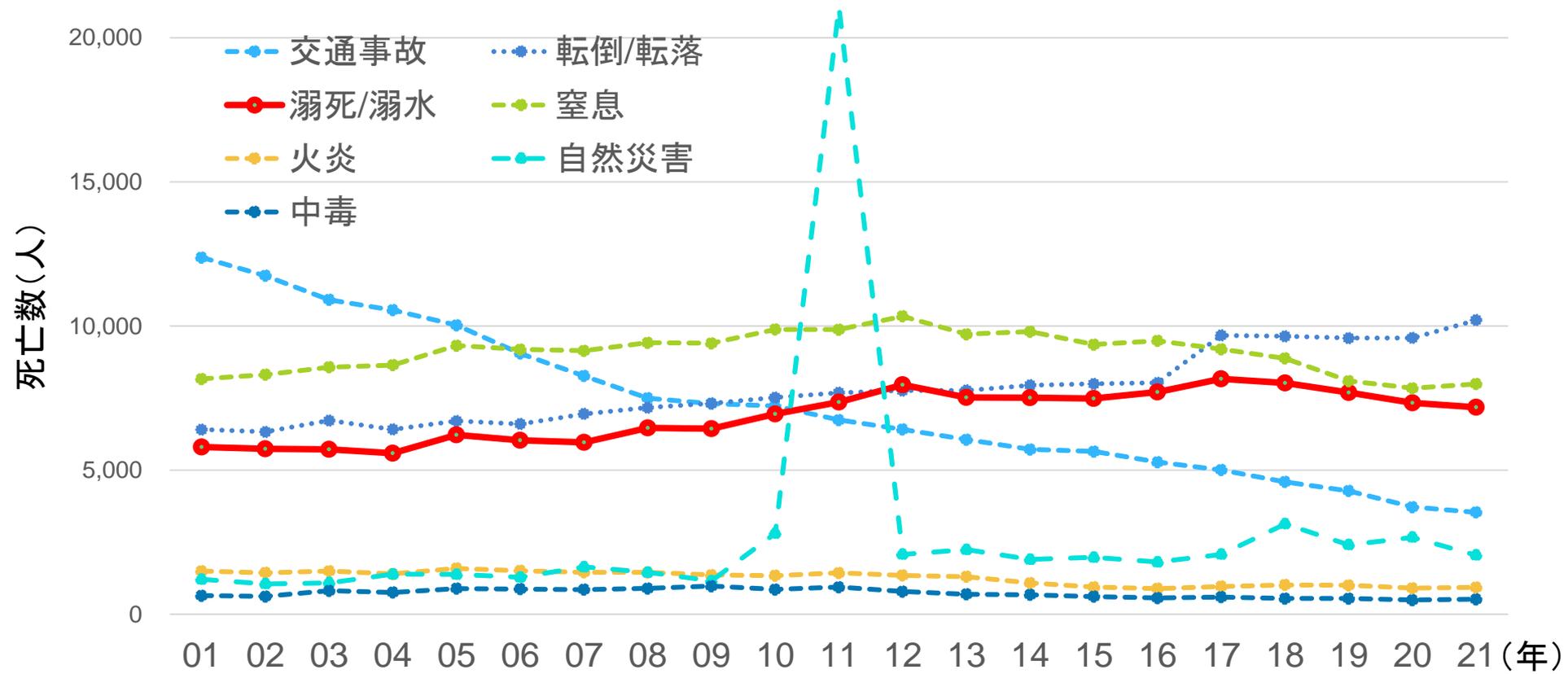


data: 厚生労働省「人口動態統計」より作成

- 65歳以下の割合が高い(家庭内に比べ) → 41.8%(2021年)
- 65歳以上は減少傾向
 - 531人(1999年) → 359人(2021年)
- 65歳以下は大きく減少傾向
 - 1,035人(1999年) → 238人(2021年)

日本の溺水事故の現状の整理

主な不慮の事故の種類別にみた死亡数(厚生労働省)



data: 厚生労働省「人口動態統計」より作成

- ・ **溺水**: 01年5,802人→17年8,164人と増加、**それ以降は減少(21年7,184人)**
- ・ **交通事故**: 01年12,378人から21年3,536人と減少傾向
- ・ **交通事故より溺水の方が死亡原因としては多い!**

交通安全思想の普及徹底予算

▶ 第1表 陸上交通安全対策関係予算分野別総括表

(単位：百万円)

事 項	令和2年度 当初予算額	令和3年度 当初予算額	令和4年度 当初予算額	比 較 増減額	令和2年度 決 算 額
2 交通安全思想の普及徹底	649	651	703	52	30
(1) 交通安全思想普及推進事業（内閣府）	47	47	45	▲2	27
(2) 交通安全教育・普及活動の推進（警察庁）	18	20	23	3	—
(3) 交通安全教育指導等（文部科学省）	581	581	632	51	—
(4) 飲酒運転事犯者処遇の充実強化（法務省）	3	3	3	—	3

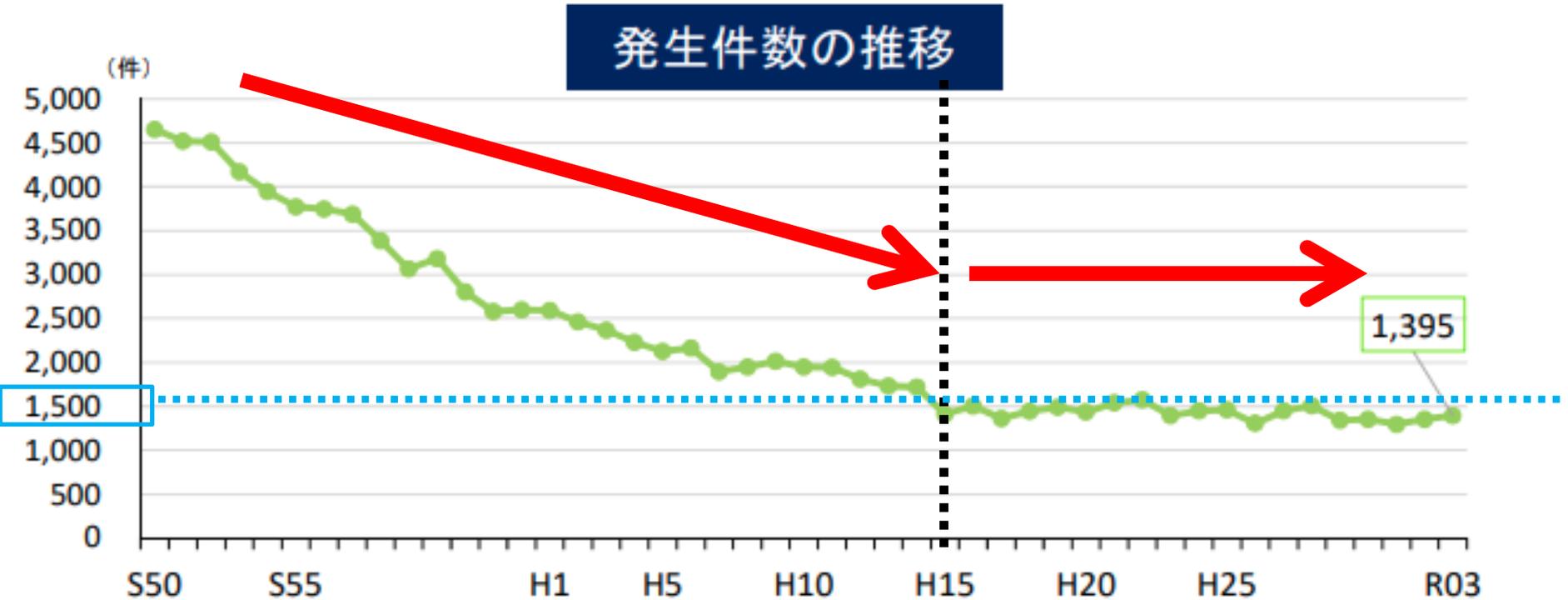
data：内閣府「令和4年版交通安全白書」

・ 令和4年度予算 7.03億円(増加傾向)
(内閣府・警察庁・文科省・法務省)

・ 水辺の事故安全思想の普及徹底予算ってある??

日本の溺水事故の現状の整理

・水難事故発生状況(警察庁)



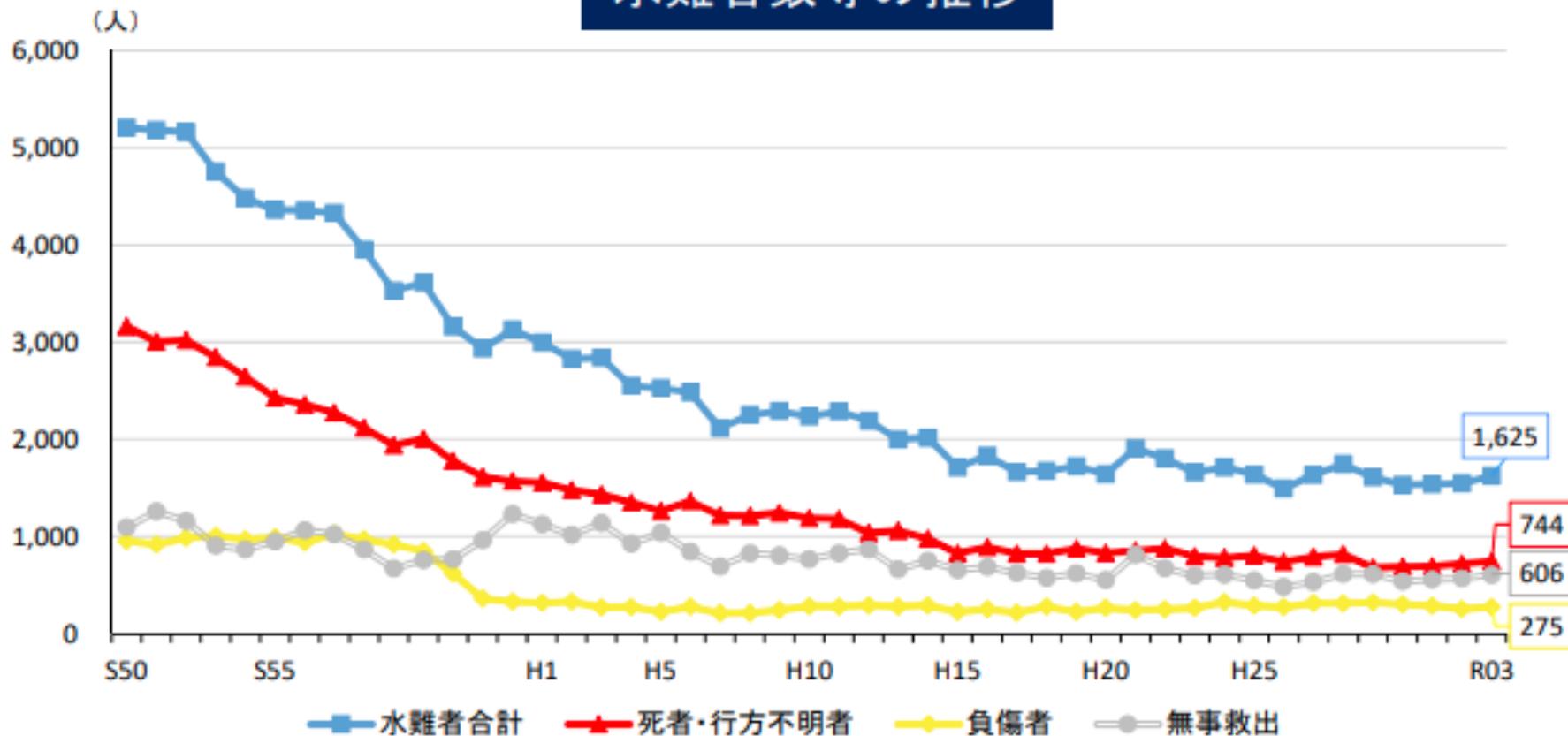
data: 警察庁「令和4年における水難の概況」

- ・ 2003年(H15)までは、減少傾向
- ・ 2003年(H15)以降は1,500件前後で横ばい

日本の溺水事故の現状の整理

・水難事故発生状況(警察庁)

水難者数等の推移

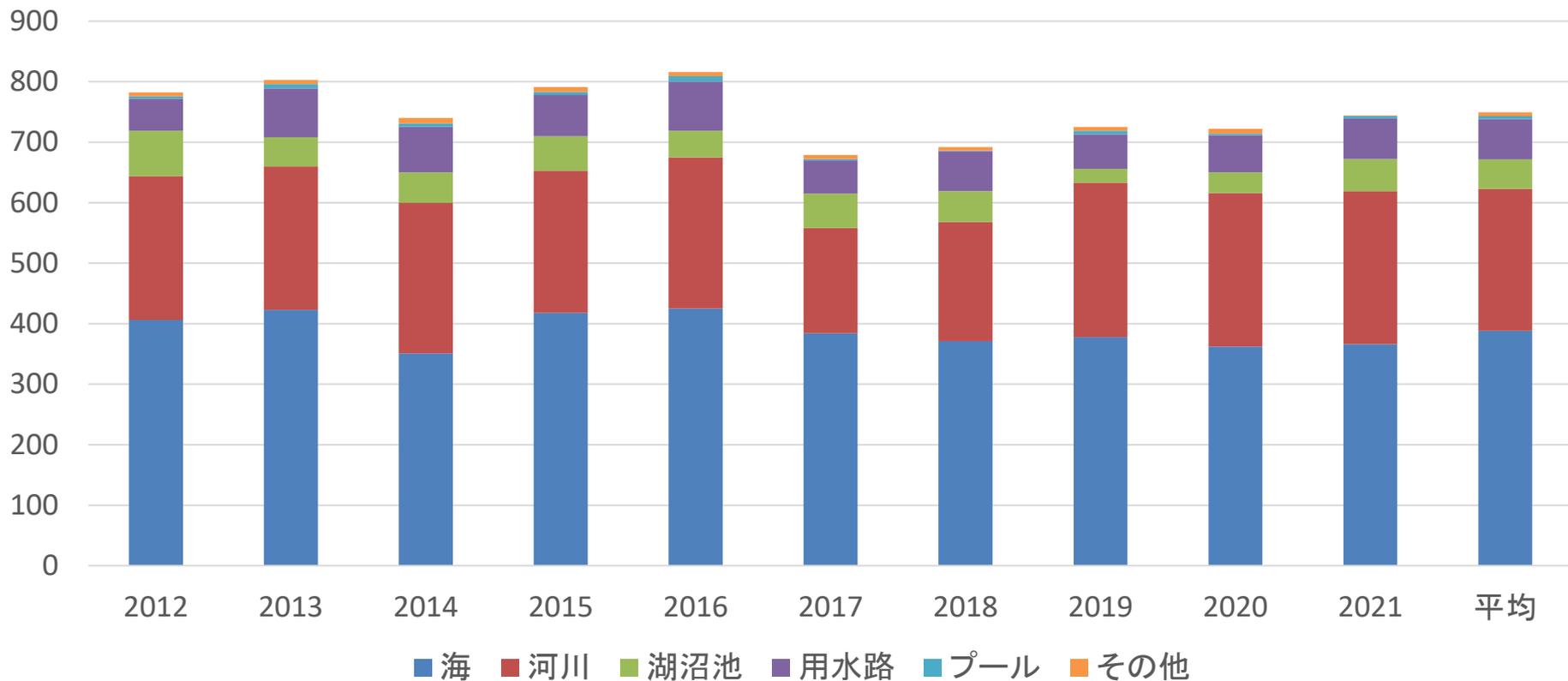


data: 警察庁「令和4年における水難の概況」

- ・ 2021年(R03)の水難者数は1,625人
- ・ 2021年(R03)の死者・行方不明者は744人

日本の溺水事故の現状の整理

・水難事故(死者・行方不明者):発生状況 場所別(警察庁)

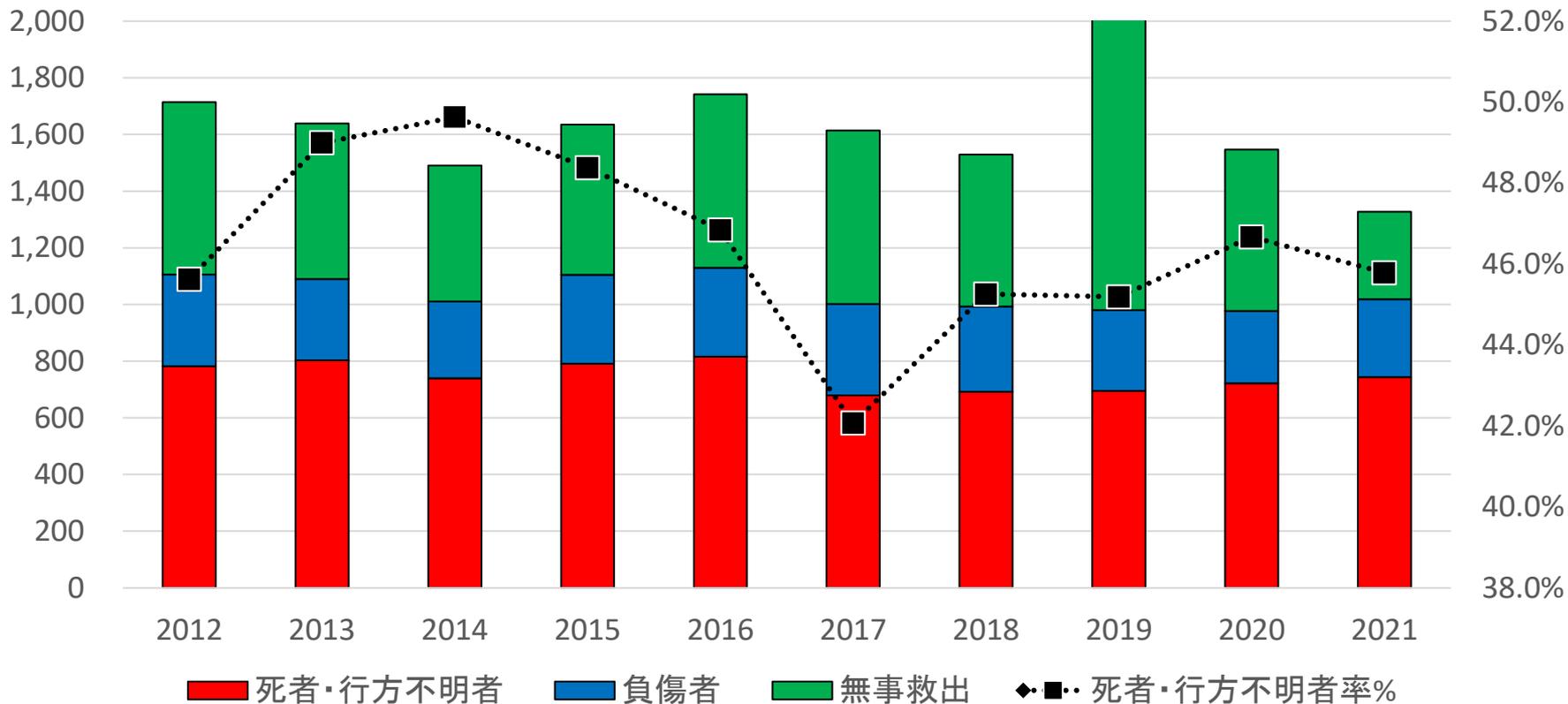


data: 警察庁「平成28-令和4年における水難の概況」

- ・ 平均は、海:388人、河川:234人、湖沼等:49人、用水路:66人、プール5人
- ・ 平均割合は、海:51.8%、河川:31.3%、湖沼等:6.6%、用水路:8.9%、プール:0.6%

日本の溺水事故の現状の整理

・水難事故：死者・行方不明者、負傷者、無事救出割合：（警察庁）



data: 警察庁「令和4年における水難の概況」

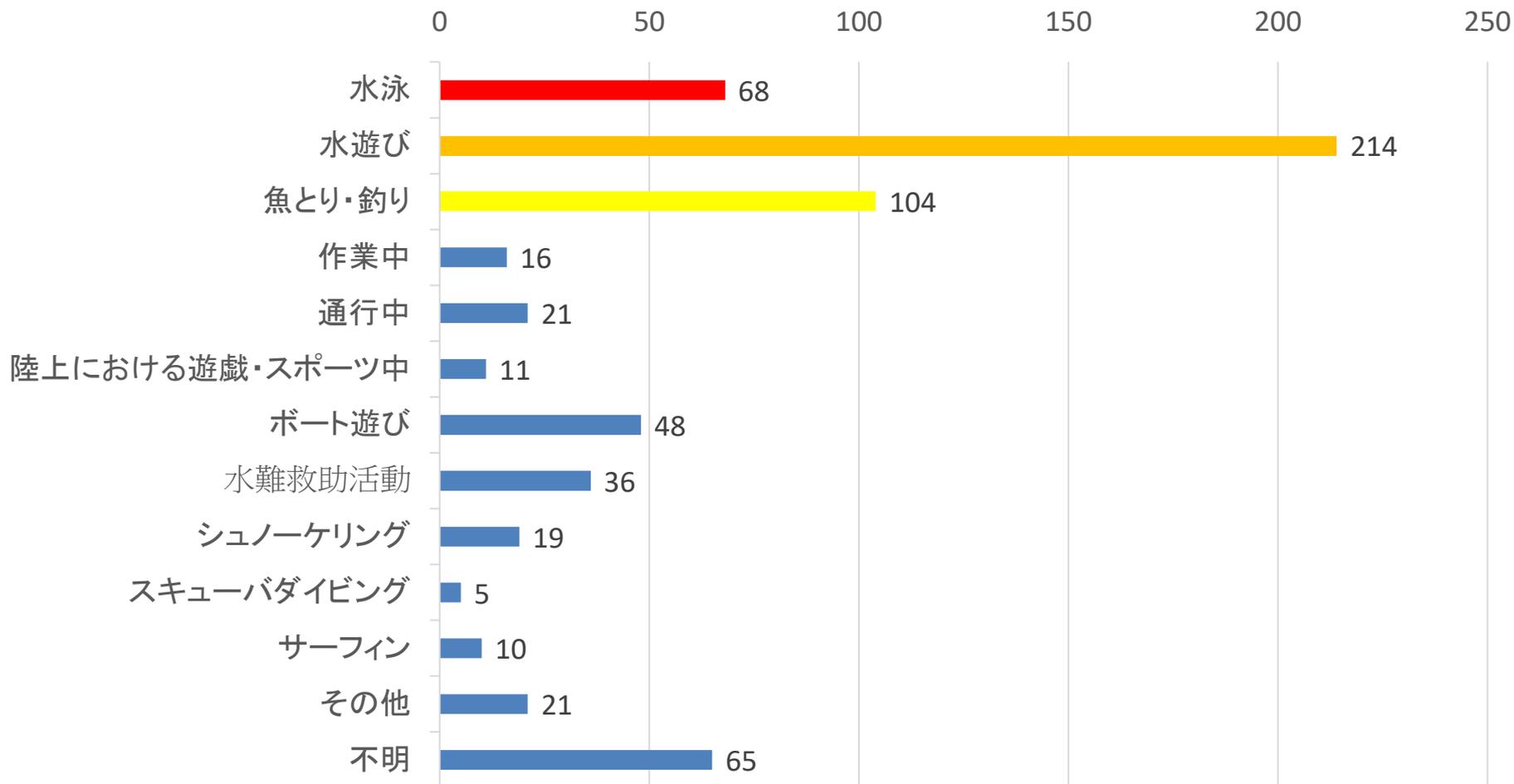
・水難事故に合うと約45%以上は、重大事故(死亡・行方不明)になる。

→事故を未然に防ぐことが重要

日本の溺水事故の現状の整理

・ 夏期(2019年7-8月)行為別水難者(警察庁 2020) 594人

水難者(人)



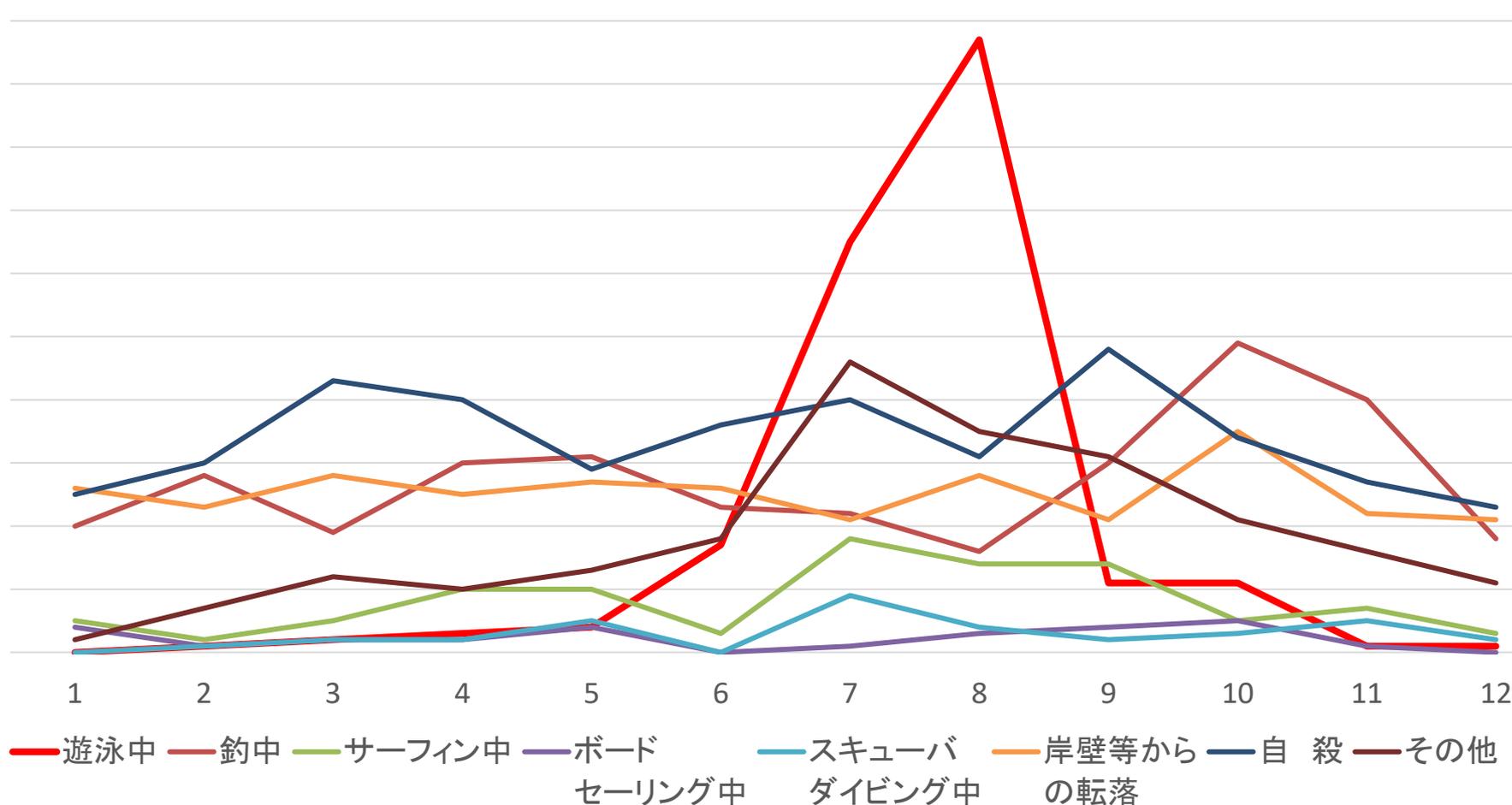
data: 警察庁「令和4年夏期における水難の概況」

・ 水泳, 水遊び, 魚とり・釣りの割合が高い

日本の溺水事故の現状の整理

・ 月別海浜事故等の発生数(海上保安庁 2021) 1,628件

発生数(件)



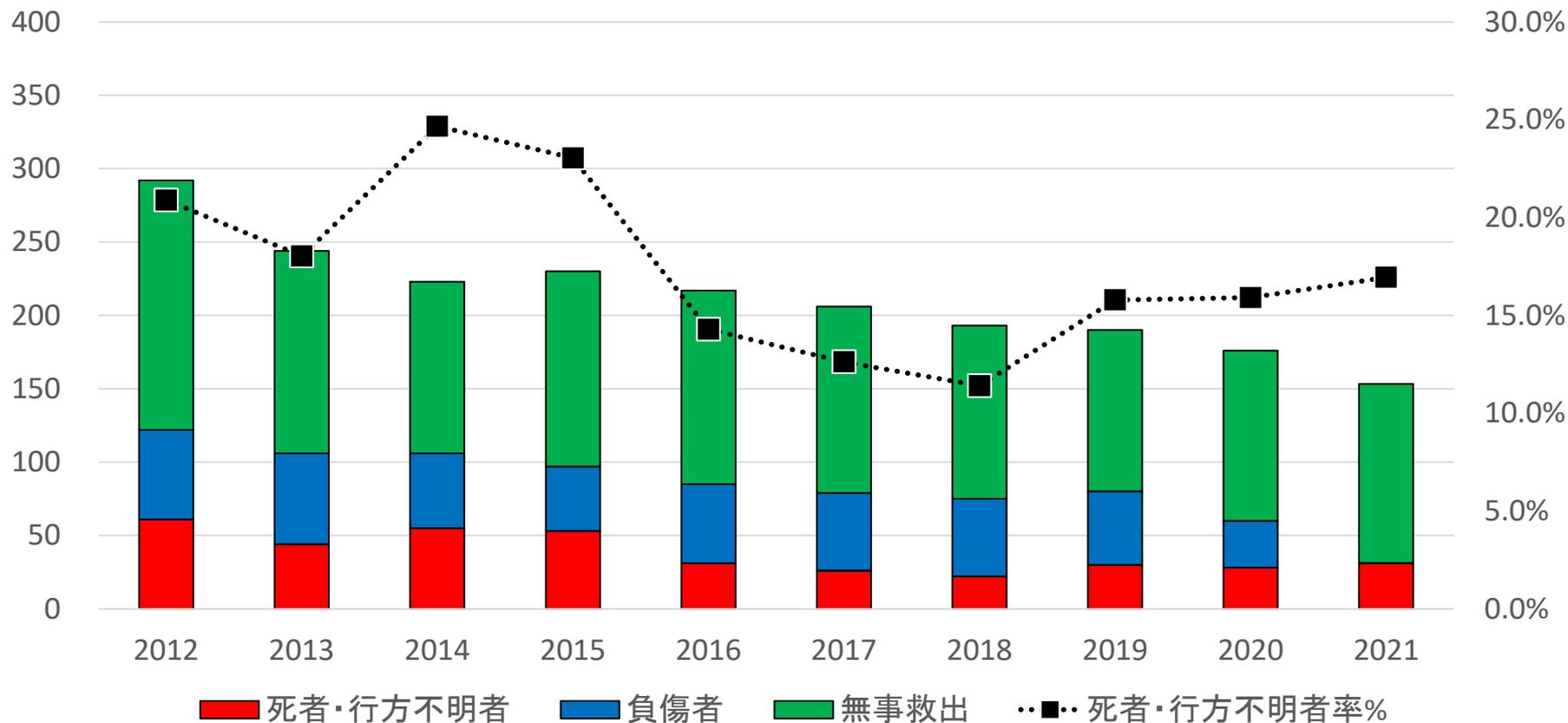
data: 海上保安庁「平成30年版 海上保安統計年報」より作成

・ 遊泳中は7-8月に集中している

子供の溺水に関するデータ

日本の溺水事故の現状の整理(子供)

・水難事故:死者・行方不明者、負傷者、無事救出割合:(警察庁)



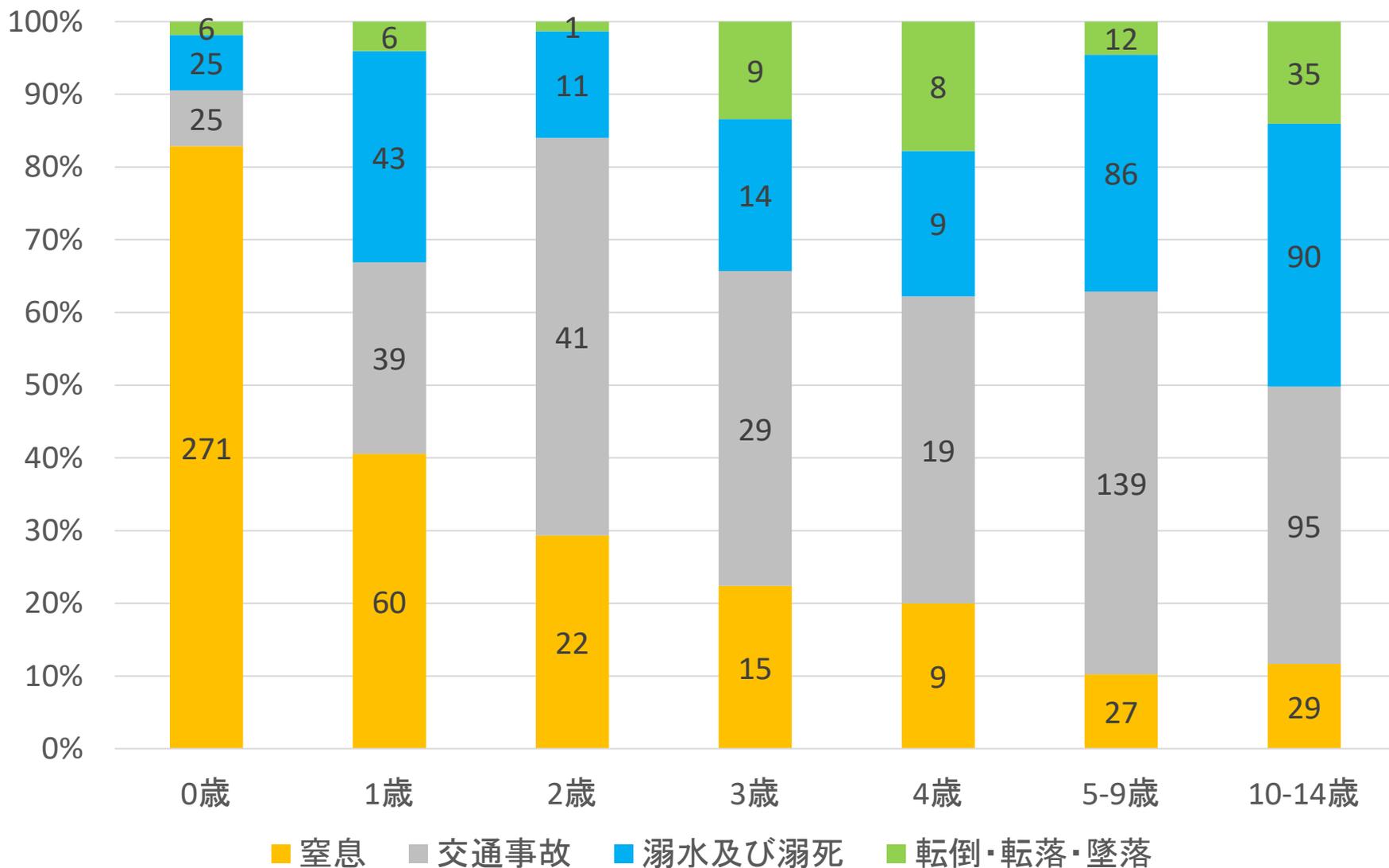
data:警察庁「令和4年における水難の概況」

・水難事故に合うと約20%は、重大事故(死亡・行方不明)になる。

→事故を未然に防ぐことが重要

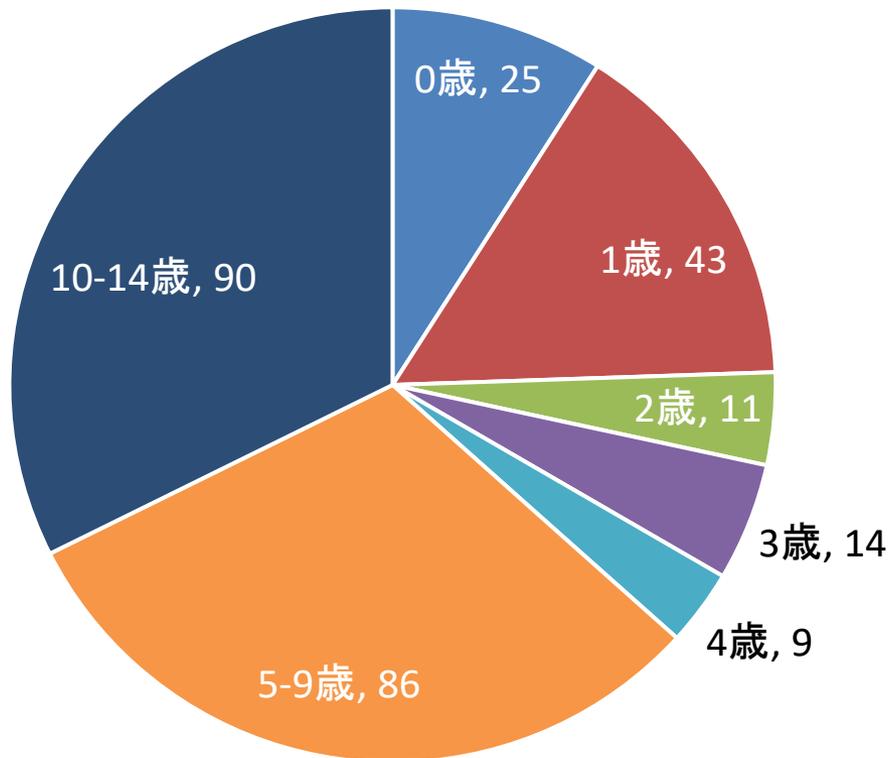
日本の溺水事故の現状の整理(子供)

主な不慮の事故の死因別死亡者数(2016-2020)

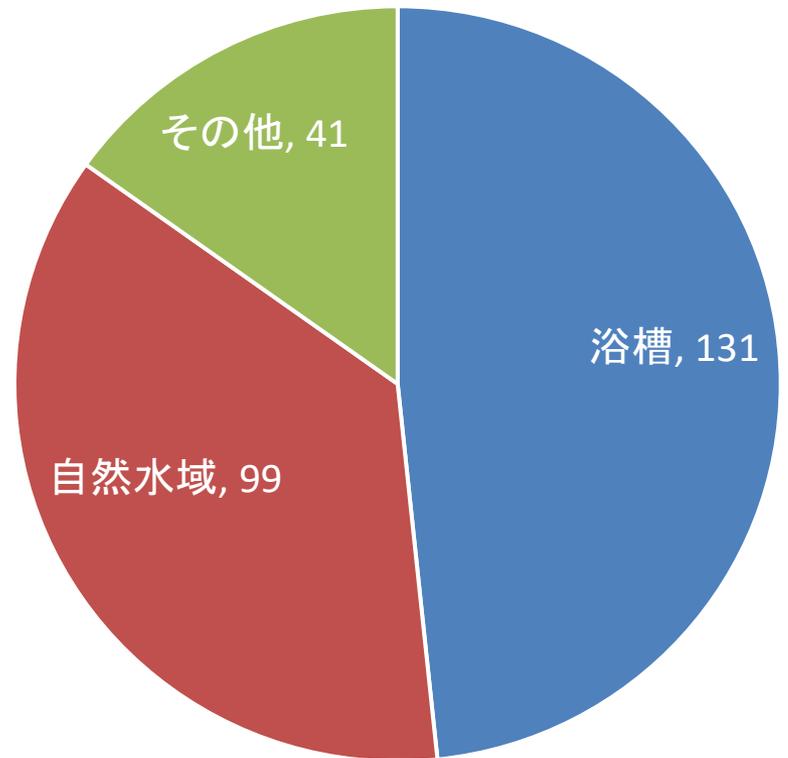


日本の溺水事故の現状の整理(子供)

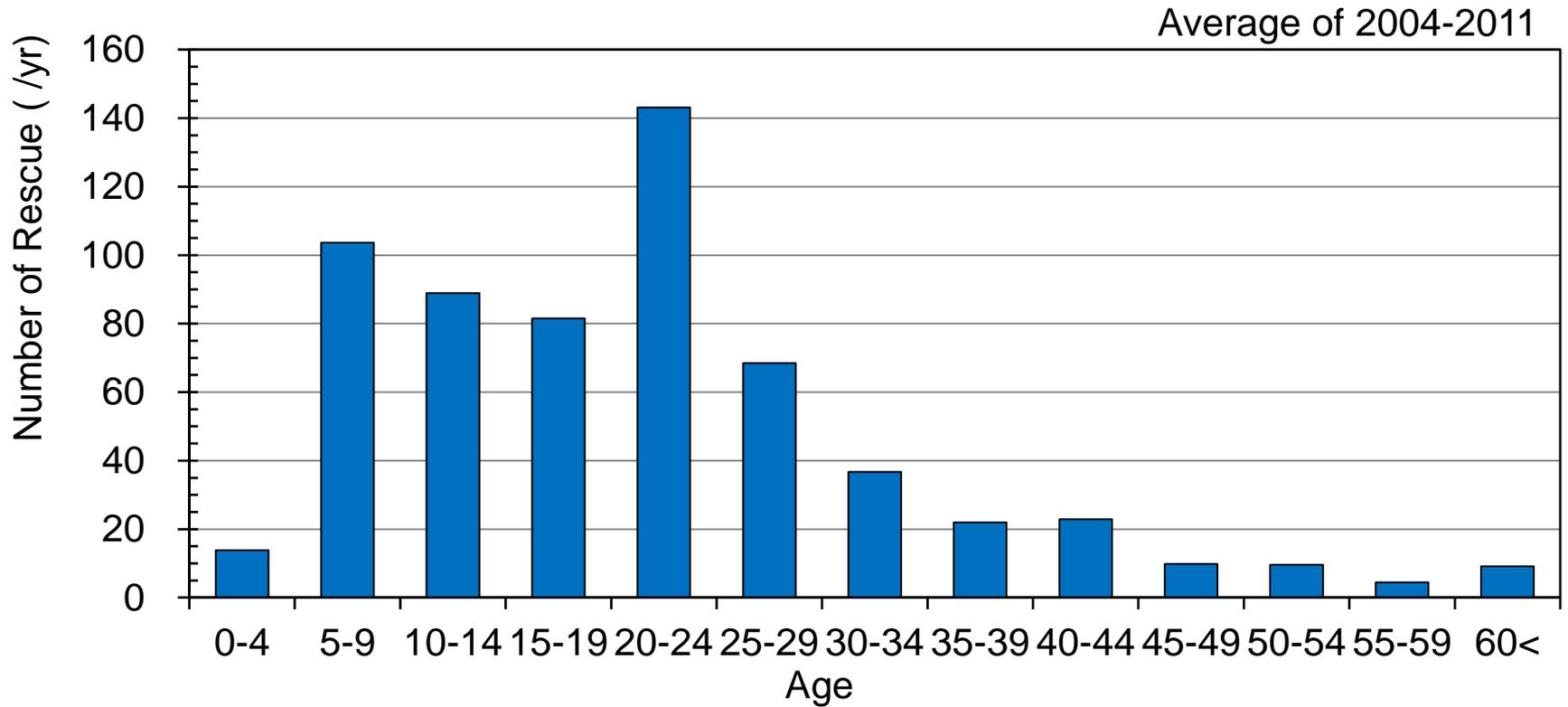
溺水事故の発生年齢 (2016-2020)



溺水事故の発生場所 (2016-2020)



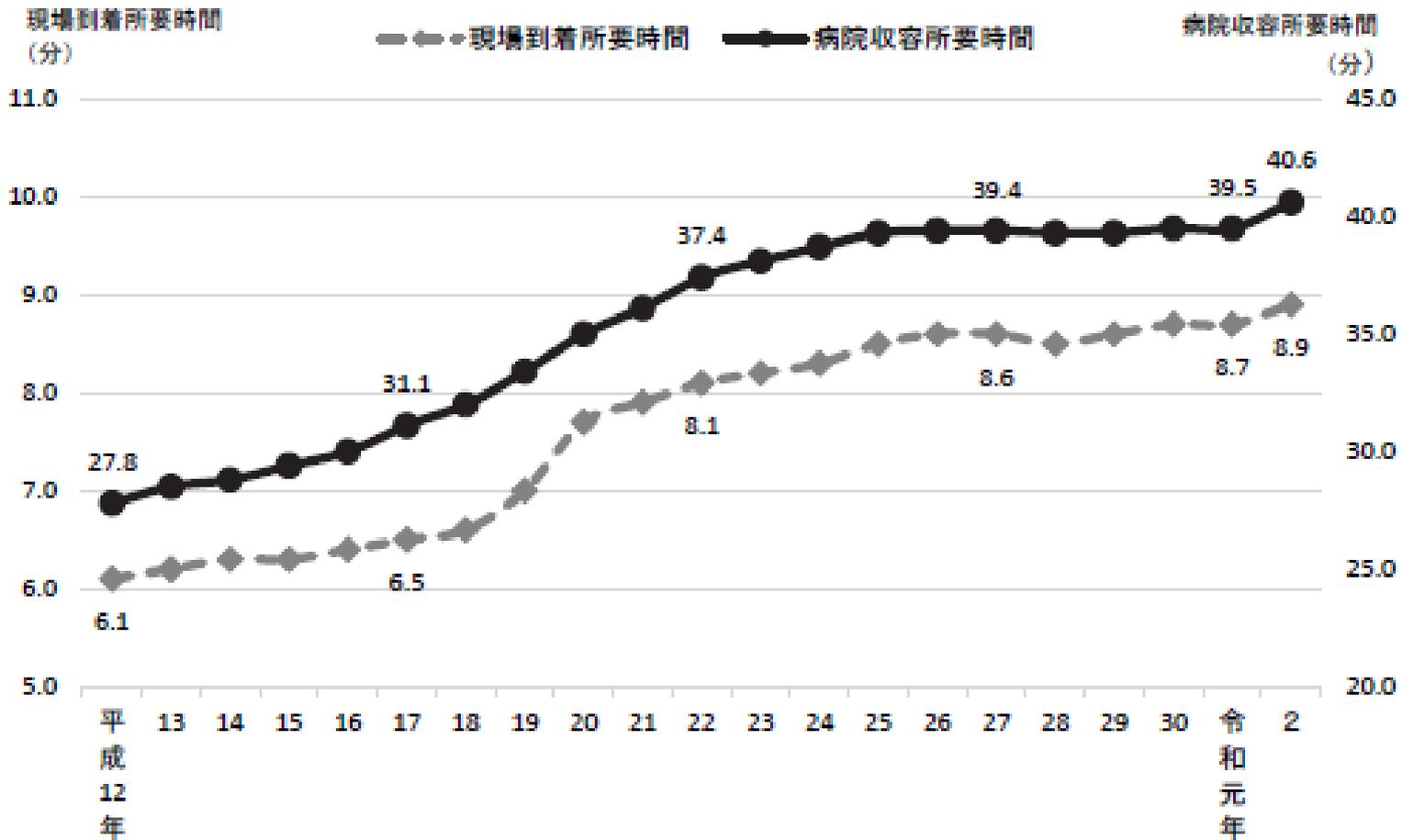
日本の溺水事故の現状の整理(子供)



海水浴場における年齢別の救助人数(JLAデータ)

BLS関係データ

119番通報から救急車の到着



出典：令和3年版 救急救助の現況 総務省消防庁

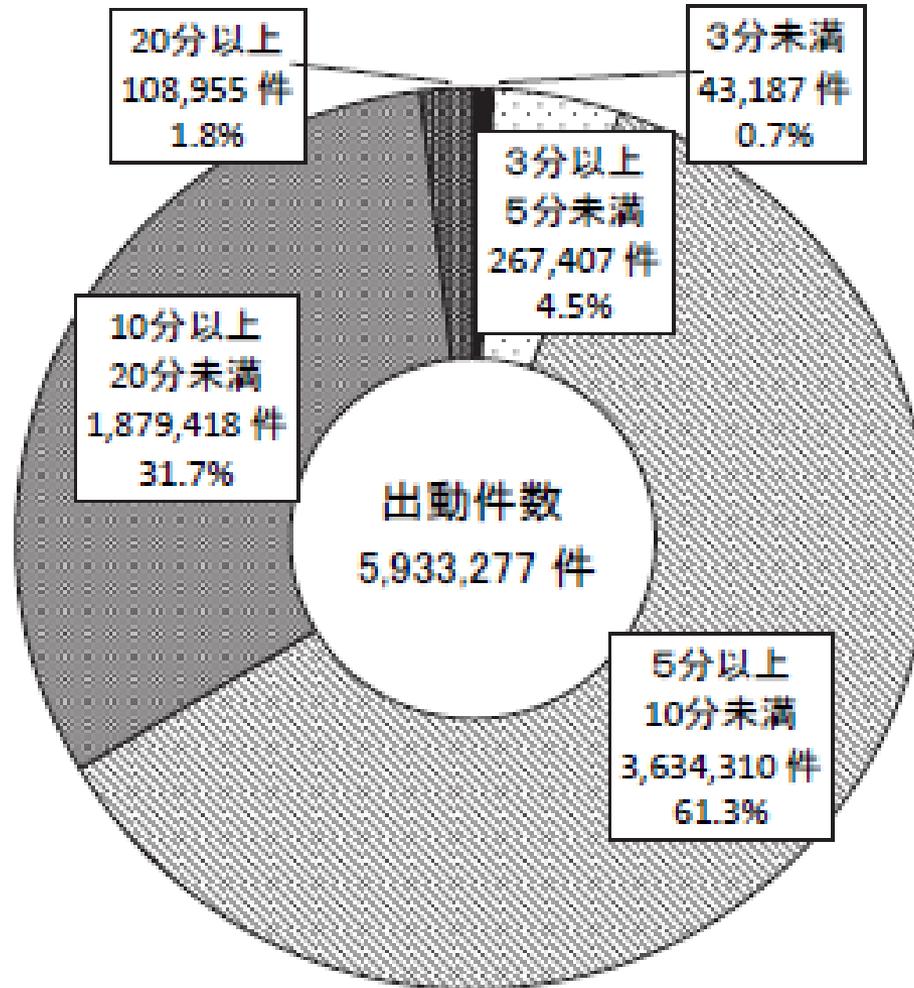
■現場への平均到着時間

8分36秒 (2017)
 8分42秒 (2018)
 8分42秒 (2019)
 8分54秒 (2020)

■医療機関収容までの所要時間

39分18秒 (2017)
 39分30秒 (2018)
 39分30秒 (2019)
 40分36秒 (2020)

119番通報から救急車の到着

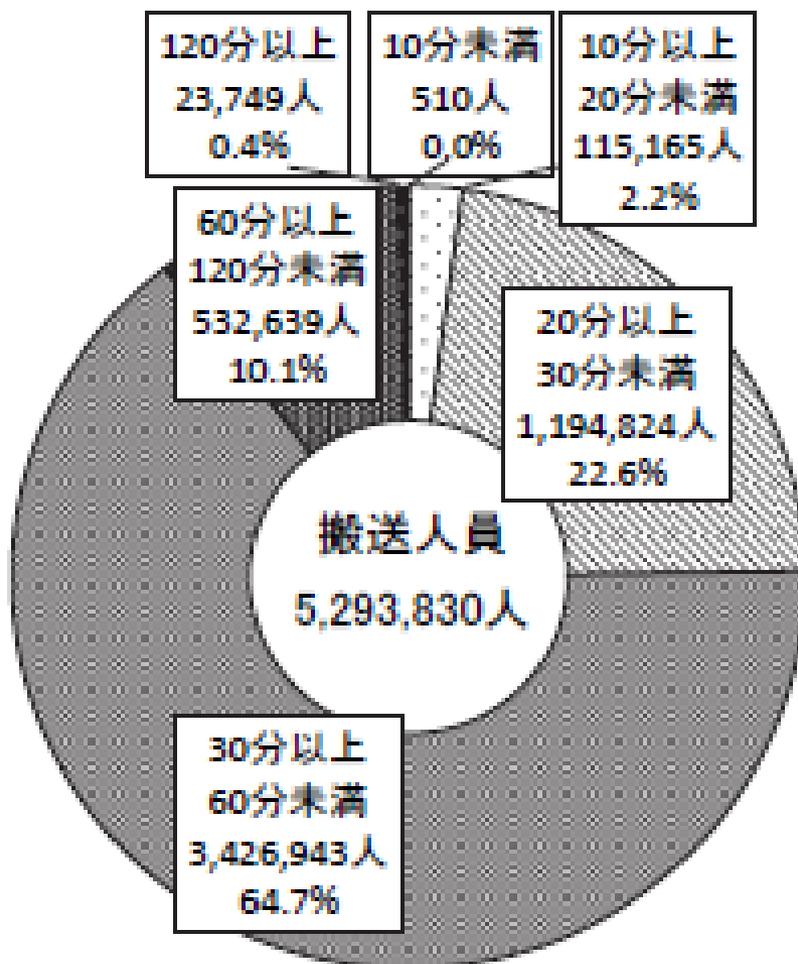


平均到着時間：8.9分

救急車到着までに10分以上かかる場合が約33%

場所別：海（12.9分）、プール（8.2分）

119番通報から病院収容所要時間

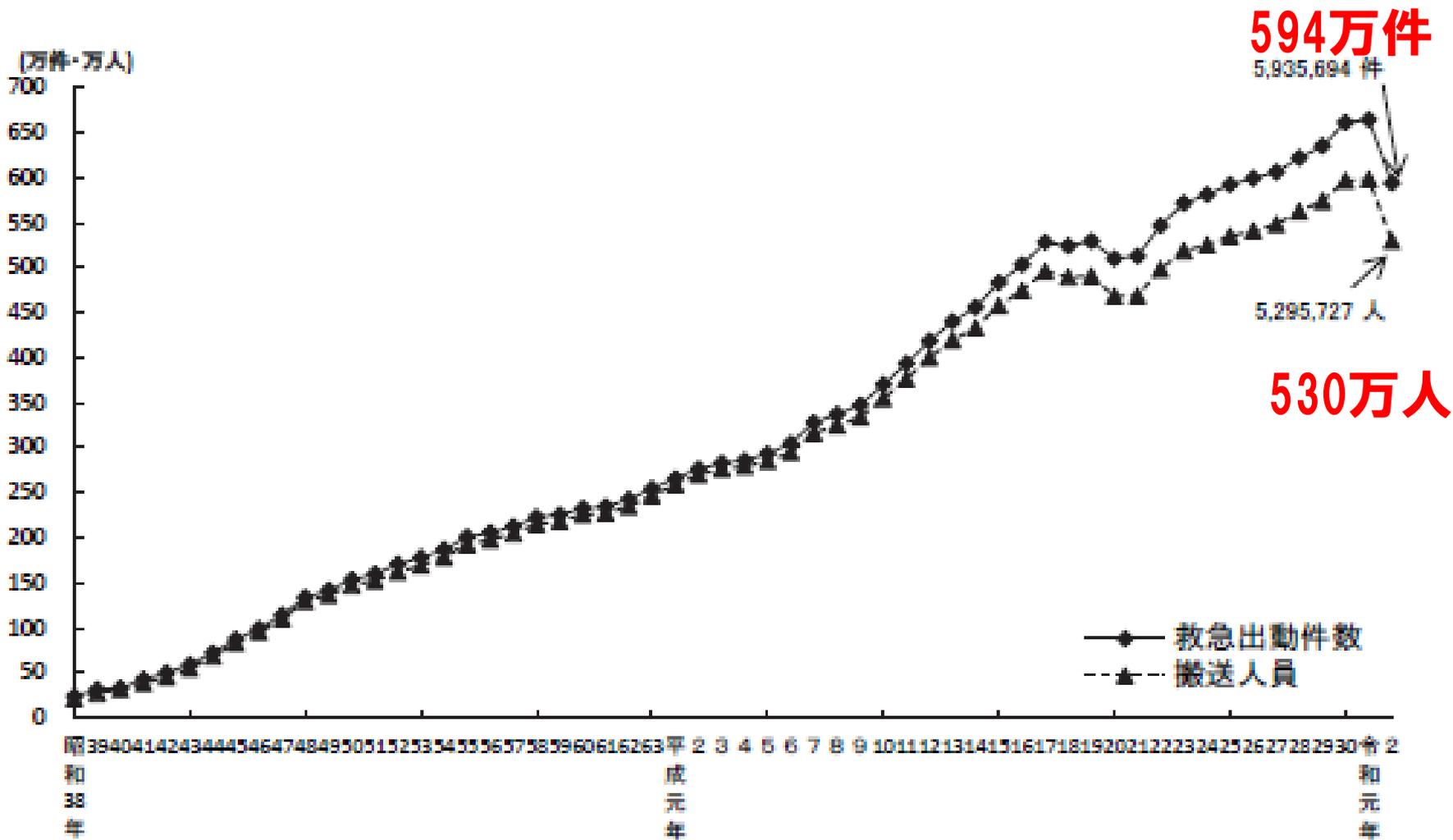


平均病院収容所要時間：40.6分

病院収容までに30分以上かかる場合が約76%

場所別：海（53.0分）、プール（38.4分）

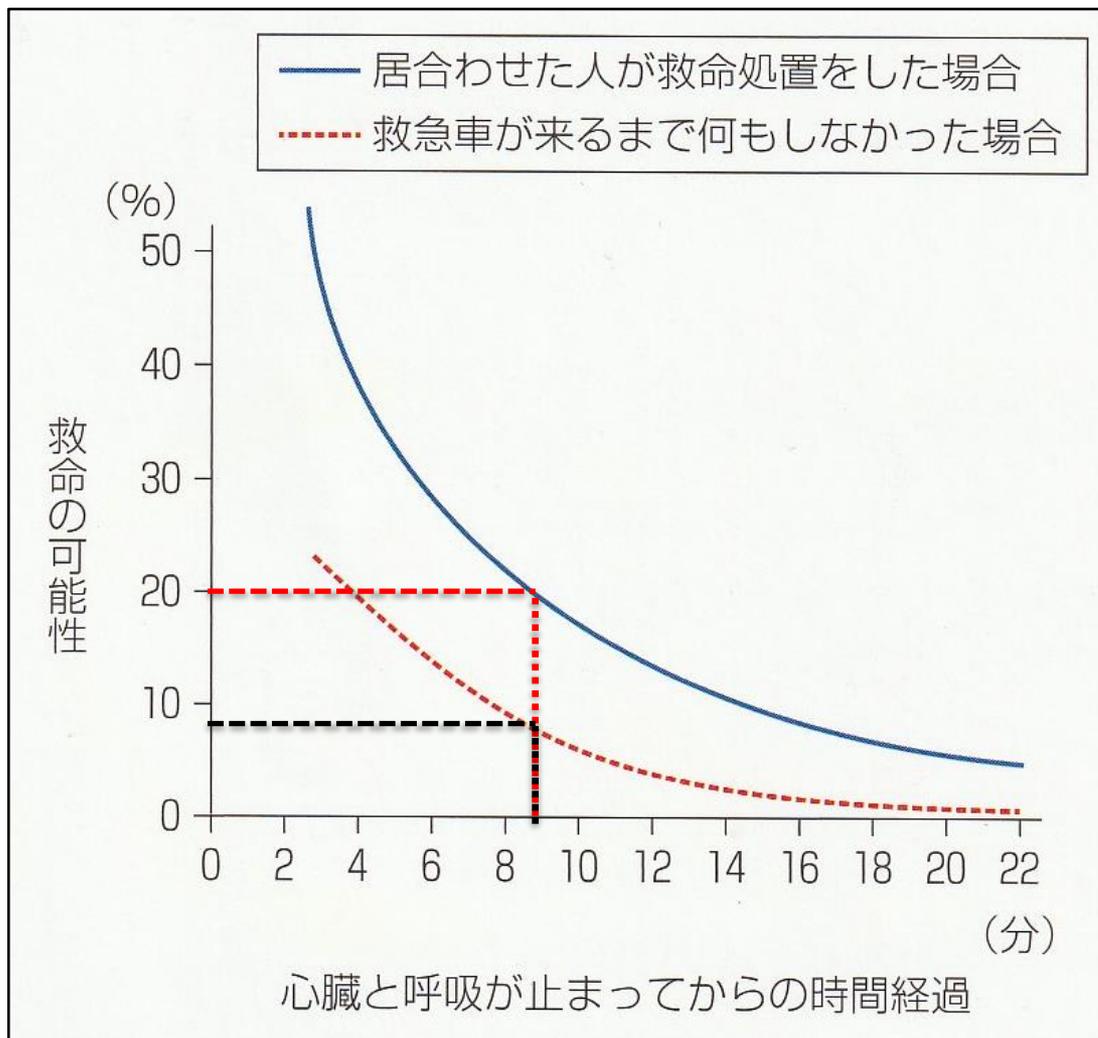
日本の救急出動件数及び搬送人員



2020（令和2年）は減少

出典：令和3年版 救急救助の現況 総務省消防庁

救命の可能性と時間経過



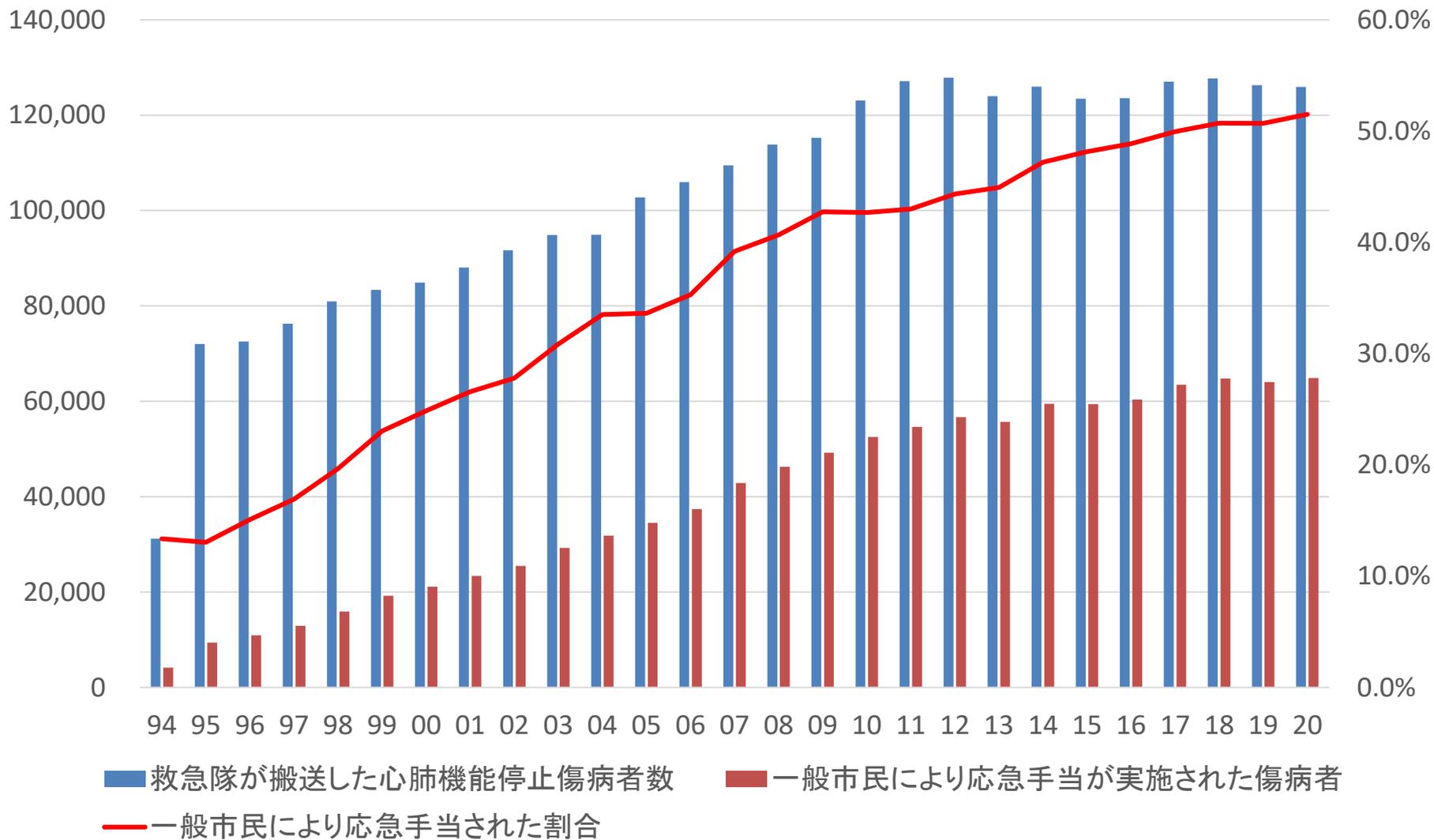
心臓と呼吸が止まってからの時間経過

救急車が来るまで約8.9分

救急車が来るまで何もなかった場合 → 10%以下

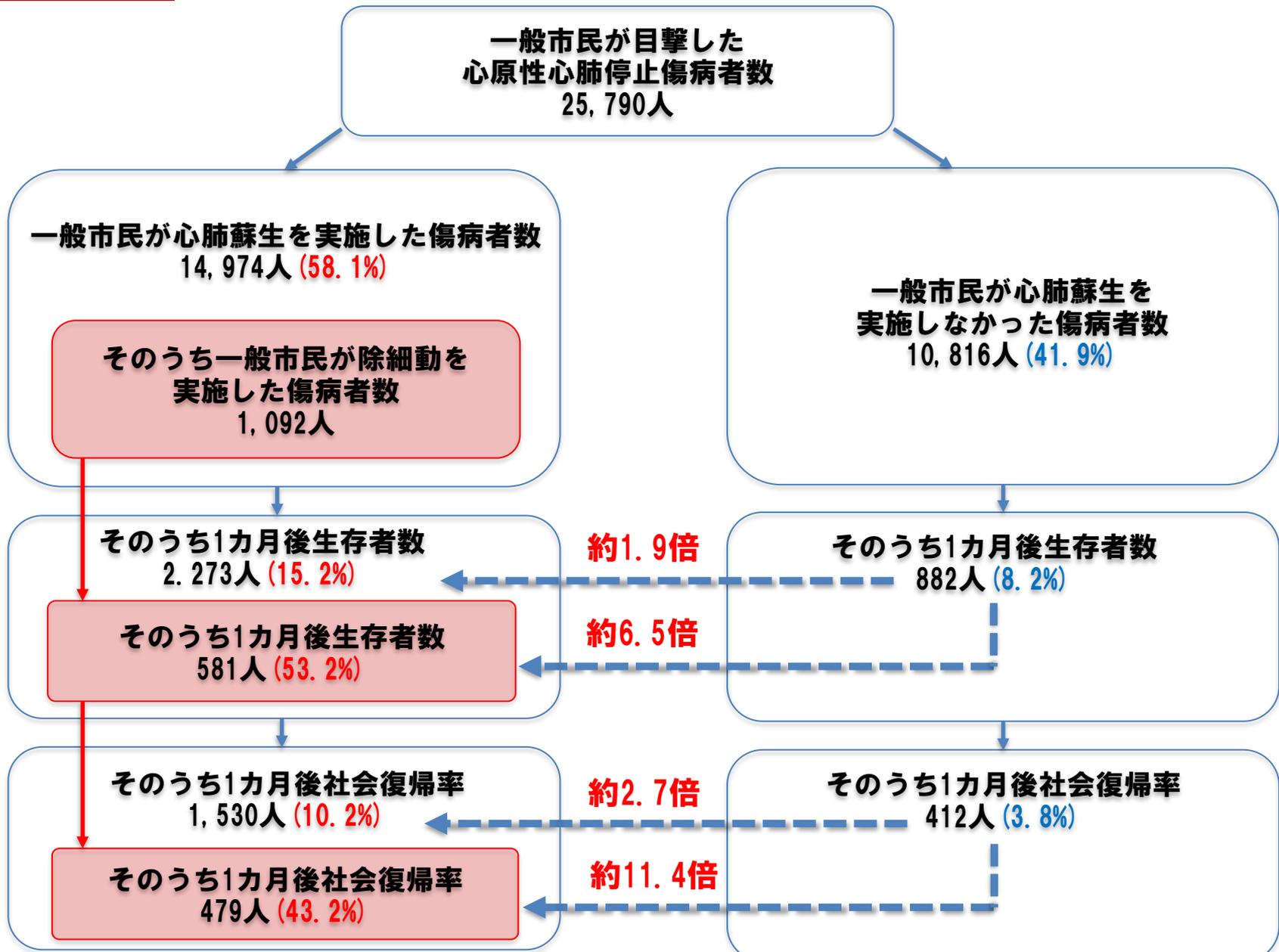
居合わせた人が救命処置をした場合 → 20%

日本の応急手当実施の推移



一般市民のよる応急手当実施率：13.4% (1994) → 51.5% (2020)

日本の応急手当実施の現状



日本の応急手当実施の現状

区分	年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
一般市民が心原性心肺機能停止を目撃した傷病者		23,296	23,797	25,469	25,255	24,496	25,569	25,538	25,756	25,560	25,790
うち、一般市民により除細動が実施された傷病者		738	881	907	1,030	1,103	1,204	1,260	1,254	1,311	1,092
1ヵ月後、生存		333	365	455	519	596	642	674	701	703	581
生存率		45.1%	41.4%	50.2%	50.4%	54.0%	53.3%	53.5%	55.9%	53.6%	53.2%
OPC/CPC共に1又は2		287	317	388	446	508	547	576	605	603	479
社会復帰率		38.9%	36.0%	42.8%	43.3%	46.1%	45.4%	45.7%	48.2%	46.0%	43.9%
うち、一般市民による除細動が実施されなかった(適応でなかった)傷病者		22,558	22,916	24,562	24,225	23,393	24,365	24,278	24,502	24,249	24,698
1ヵ月後、生存		2,322	2,371	2,580	2,563	2,590	2,758	2,770	2,883	2,856	2,574
生存率		10.3%	10.3%	10.5%	10.6%	11.1%	11.3%	11.4%	11.8%	11.8%	10.4%
OPC/CPC共に1又は2		1,390	1,393	1,587	1,526	1,595	1,679	1,656	1,750	1,688	1,463
社会復帰率		6.2%	6.1%	6.5%	6.3%	6.8%	6.9%	6.8%	7.1%	7.0%	5.9%
うち、一般市民による除細動の適応有無が不明の傷病者		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

一般市民が心原性心肺機能停止を目撃した傷病者に対して除細動を実施した傷病者の1ヵ月後の生存率

45.1% (H23) → 53.2% (R2)

JLA各種データ

日本におけるLSの現状

- ライフセービング→「人命救助」又は「救命」
- ライフセービングは「一次救命を本旨とした社会活動であり、**水辺の事故防止のための実践活動**」を指す
- 「溺れた者を救う」**救助活動**だけでなく、「溺れない安心な環境をマネジメントする」**未然防止活動**



日本におけるLSの現状

■ライフセーバーとは？

- ・ 広義：ライフセービング活動に携わる人
- ・ 狭義：ライフセーバーの資格を取得した人
(継続して活動している人！)



JLAではBASICサーフライフセーバー又はプールライフガード以上の資格保有者を**認定ライフセーバー**と称している。

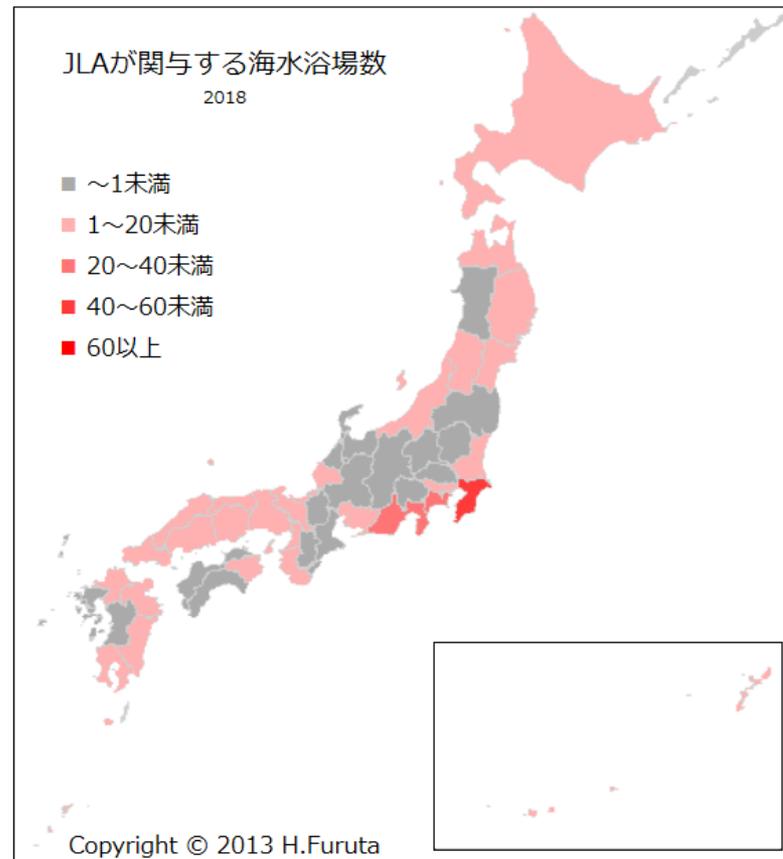
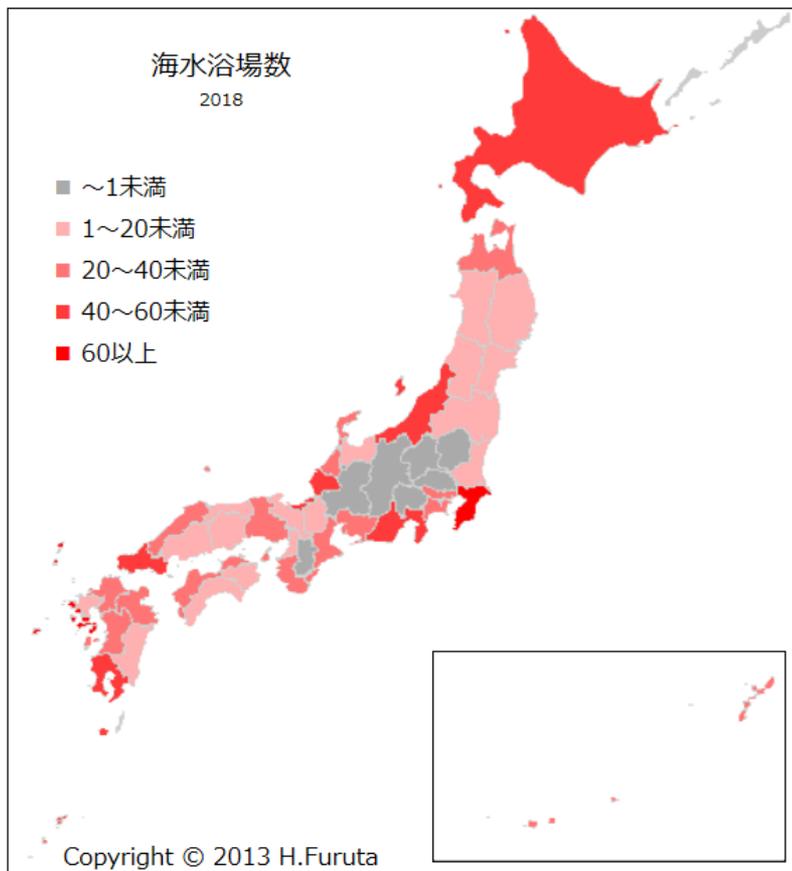
■ライフガードとは？

LS活動で生活の糧を得ている人

→プロフェッショナル

日本では、まだ確立されていない。

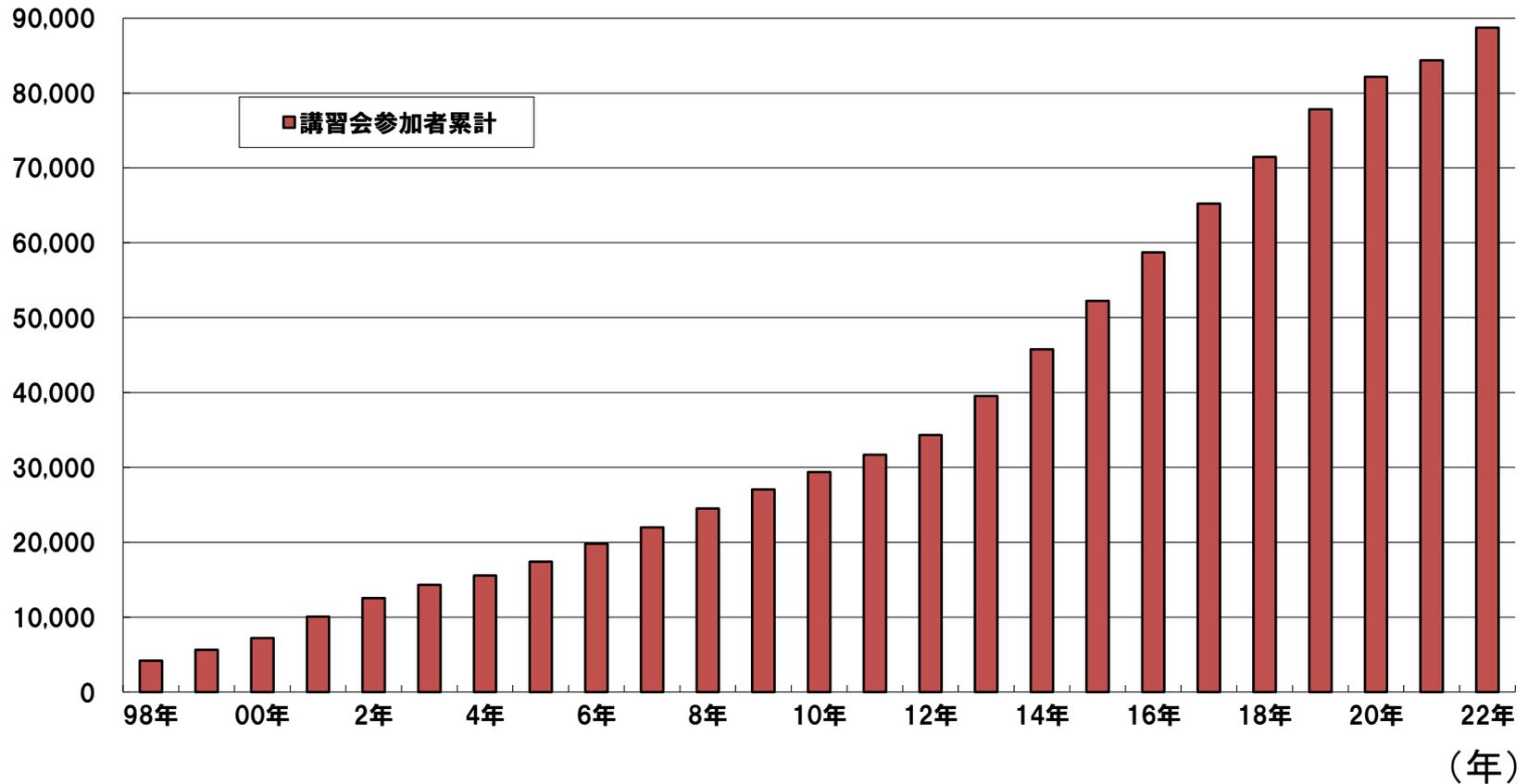
海水浴場数 (2019) 及びJLAが 関与する海水浴場 (2018) 分布図



- 海水浴場上位： 長崎:62、千葉:60、福井・静岡:56、鹿児島:55、新潟:54
- JLAが関与海水浴場上位：千葉:56、静岡:34、神奈川:20、東京:14、新潟:12、茨城:10
- 海水浴場 : 1,054か所 (数字でみる観光2019: 日本観光振興協会)
- JLAが関与 : 196か所 (2018) → **18.6%**

JLA資格講習会参加者累計(2022年3月末)

講習会参加者累計(人)



2022年3月末まで資格取得者:88,716人(更新含む)

アカデミー開始(2012年)以降の各資格・講習会数

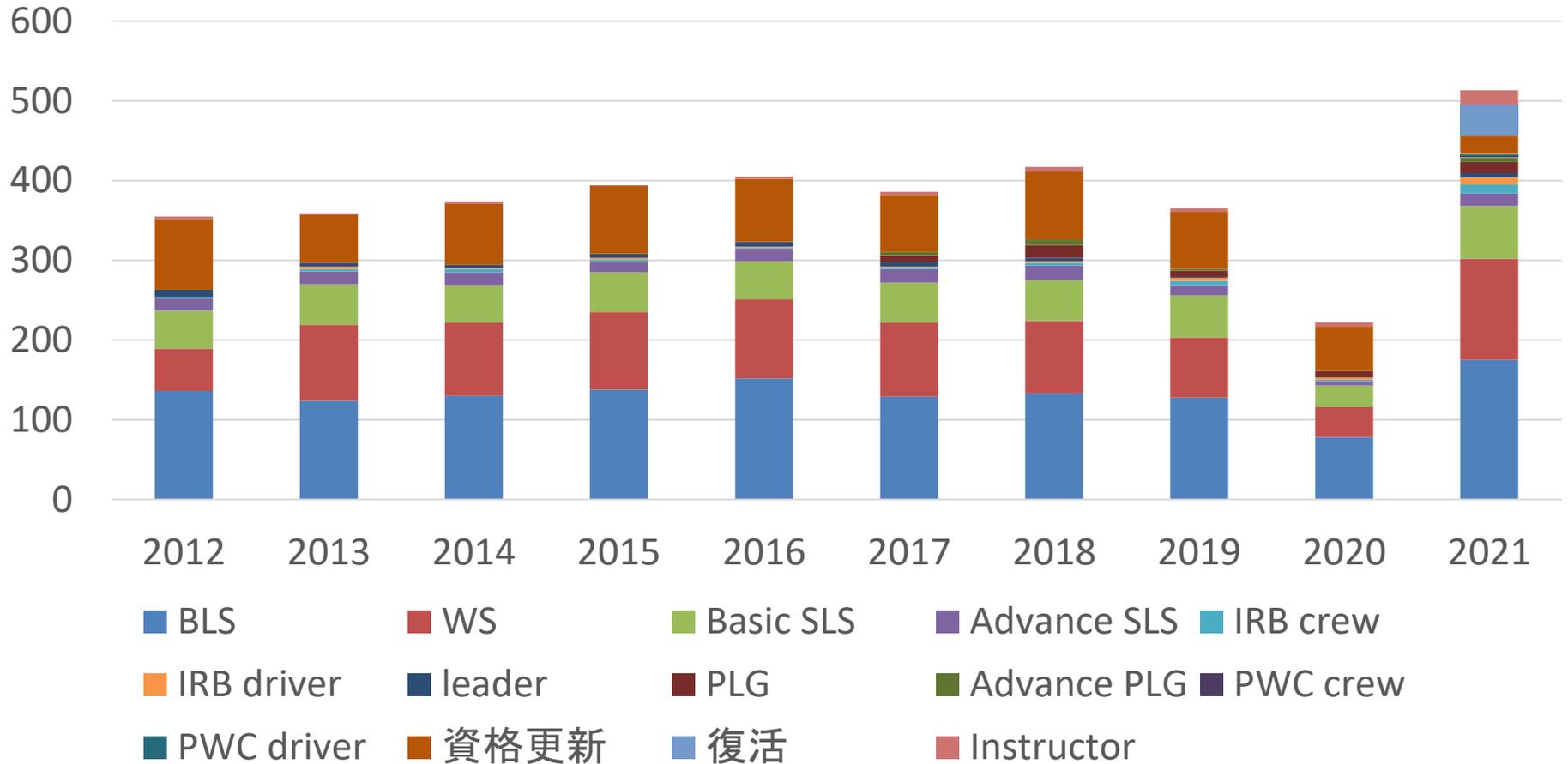
(2022/3/31現在)

資格名	2012年度 (ACADEMY開始)		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		合計		平均	
	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数
BLS	2,183	136	2,005	124	2,083	130	2,051	138	2,081	152	1,880	129	1,805	133	1,798	128	939	78	1,863	175	18,688	1,323	1,868.8	132.3
Water safety	1,293	53	2,971	95	2,997	92	2,878	97	2,890	99	2,710	93	2,602	91	1,134	75	404	38	1,130	127	21,009	860	2,100.9	86.0
Basic surf lifesaver	717	48	705	51	709	47	685	50	727	48	734	50	729	51	616	53	290	27	657	66	6,569	491	656.9	49.1
Advance surf lifesaver	129	15	116	16	141	16	100	13	146	16	143	17	171	18	110	13	30	5	102	16	1,188	145	118.8	16.1
IRB crew	12	2	17	3	26	4	17	3	7	1	15	2	25	4	55	5	8	2	68	11	250	37	25.0	3.7
IRB driver	0	0	8	3	2	1	3	2	5	1	7	1	7	2	23	4	10	3	51	9	116	26	11.6	2.6
leader	87	9	23	5	32	4	32	5	63	6	52	6	60	4	23	1	0	0	36	5	408	45	40.8	4.5
Pool Lifeguard											72	8	161	16	46	8	44	8	78	14	401	54	40.1	5.4
Advance Pool Lifeguard											29	4	45	7	10	2	0	0	22	6	106	19	10.6	1.9
PWC crew																			28	2	28	2	2.8	0.2
PWC driver																			14	2	14	2	1.4	0.2
資格更新	783	89	402	60	492	77	702	85	604	79	512	72	746	85	490	72	428	56	99	23	5,258	698	525.8	69.8
復活																			103	39	103	39	10.3	3.9
Instructor (新規)	18	3	29	2	26	3	13	1	54	3	56	4	29	6	37	4	38	5	95	18	395	49	39.5	4.9
Instructor (継続)	170		168				223				277		316	12	286	14	25	1	390	17	1,855	45	185.5	4.5
合計 ※Instructorは除く	5,222	355	6,276	359	6,508	374	6,481	394	6,577	405	6,210	386	6,380	417	4,342	365	2,191	222	4,346	513	54,533	3,790	5,453.3	380.6

- 総発行数 :4,346 (10年平均:5,453.3)
- BLS :1,863 (10年平均:1,868.8)
- WS :1,130 (10年平均:2,100.9)
- BASIC :657 (10年平均:656.9)
- 総開催数 :513 (10年平均:380.6)
- BLS :175 (10年平均:132.3)
- WS :127 (10年平均:86.0)
- BASIC :66 (10年平均:49.1)

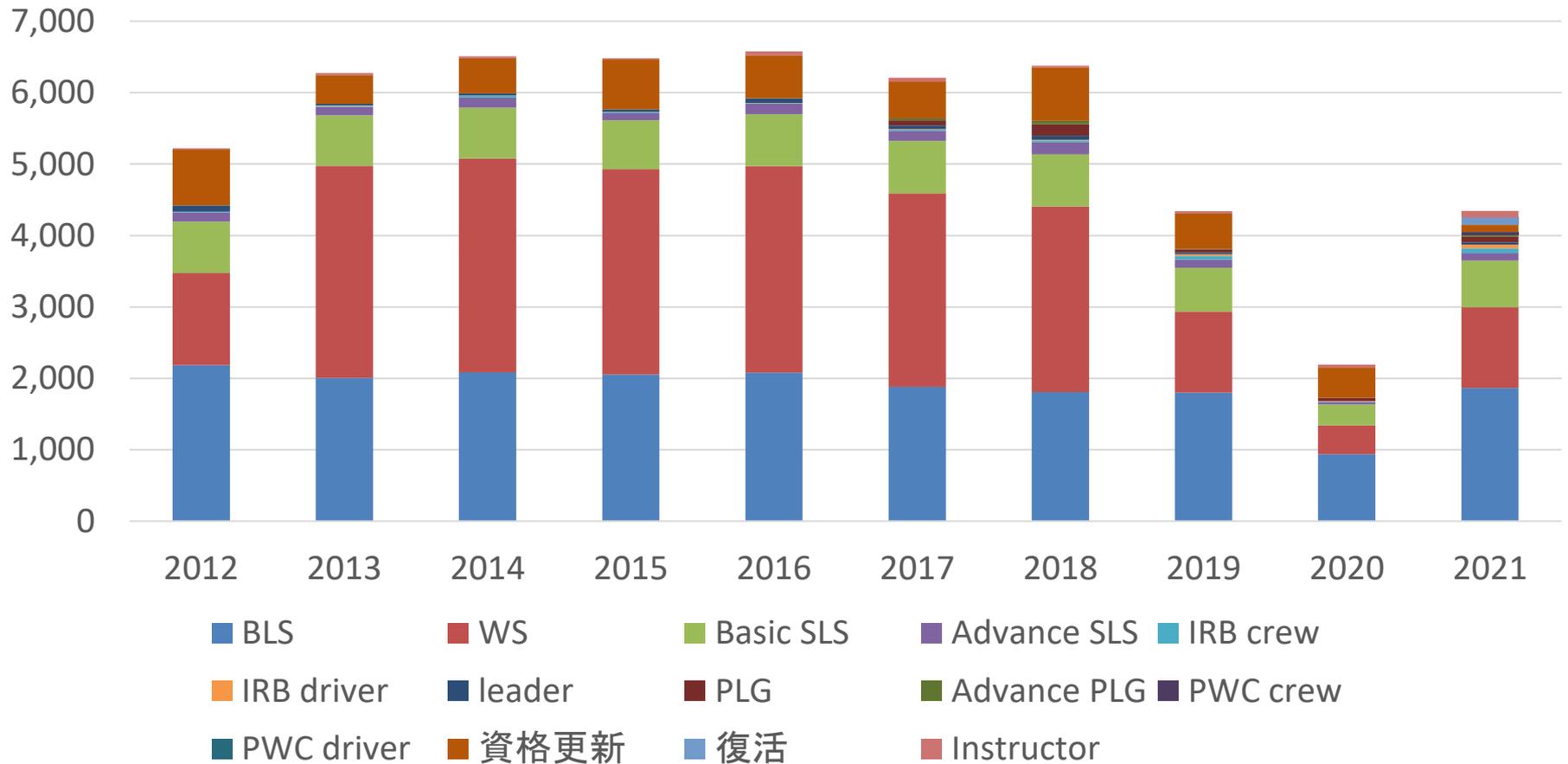
• コロナ禍で困難な状況が続いたが、コロナ以前(2019年度)まで発行数・開催数とも復活。

アカデミー開始(2012年)以降の各講習会開催数



- 2021年度は、過去最高の講習会開催数(513回)
- 復活講習会が39回開催!
- 2021年度は、NPO→公財の資格移行の資格期間延長のため更新講習がほぼなし

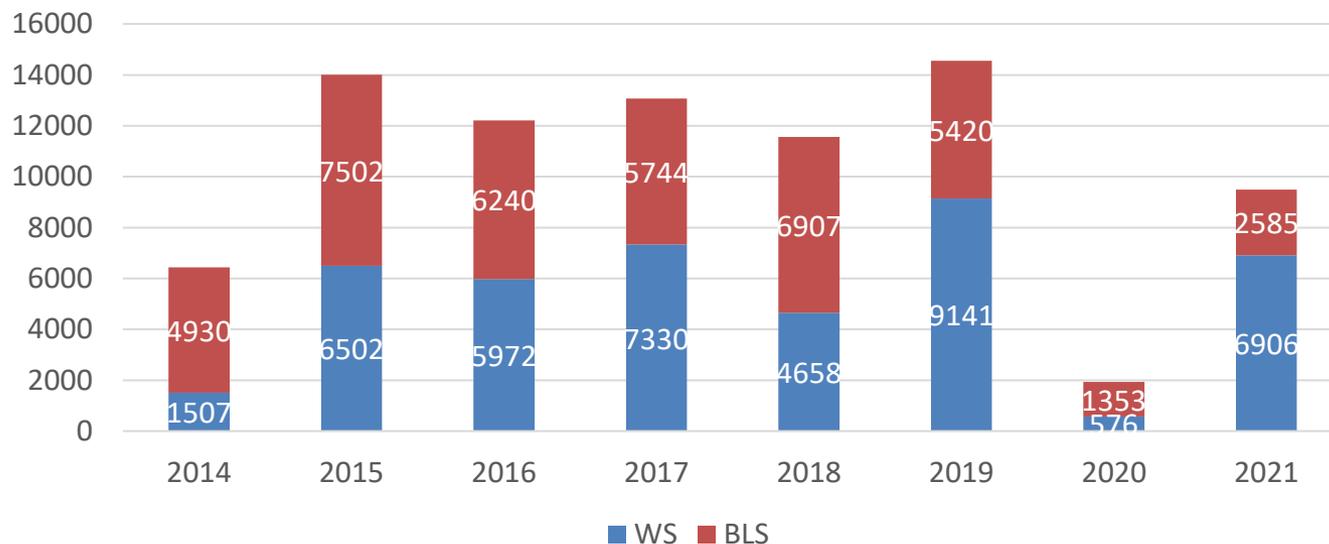
アカデミー開始(2012年)以降の各資格発行数



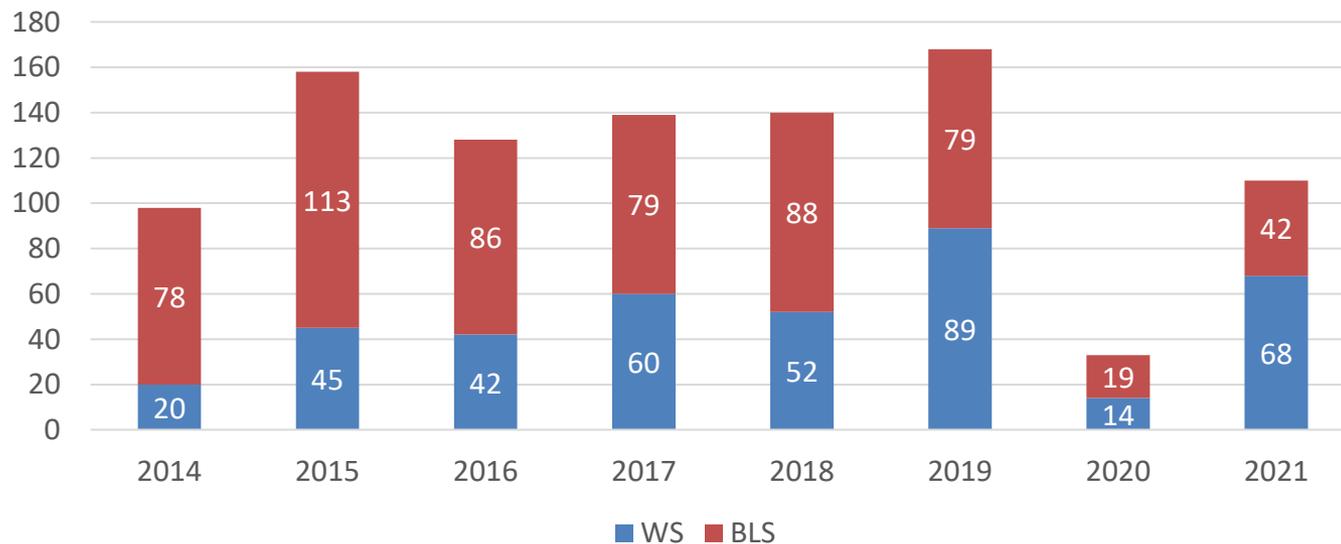
- 2021年度は、コロナ禍前の2019年度と同等の資格発行数(4,446)
- 資格復活が103！(復活講習会:失効講習会から名称変更、BLS+WS+ボード&チューブレスキュー実技。E-learningを用いれば1日で完結可能)
- 2021年度は、NPO→公財の資格移行の資格期間延長のため更新講習がほぼなし

サポーター講習会(2022年3月末)

サポーター講習会参加者数



サポーター講習会開催数



8年間で

- 83,273人
- 974回

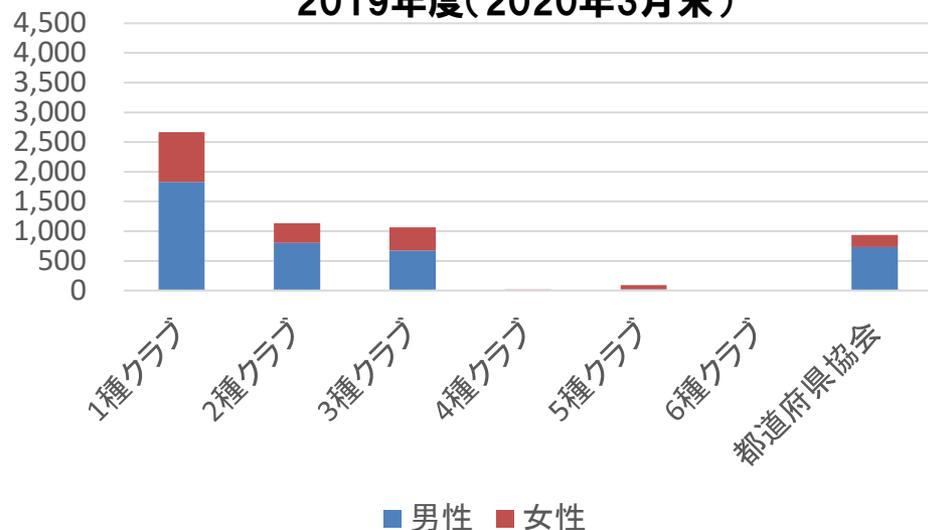
の講習実績！

各クラブ・都道府県協会登録数(2019年度と2021年度の比較)

2019	1種クラブ	2種クラブ	3種クラブ	4種クラブ	5種クラブ	6種クラブ	都道府県協会	合計
男性	1,826	801	677	7	23	1	735	4,070
女性	841	344	387	11	70	0	202	1,855
合計	2,667	1,145	1,064	18	93	1	937	5,925

2021	1種クラブ	2種クラブ	3種クラブ	4種クラブ	5種クラブ	6種クラブ	都道府県協会	合計
男性	1,402	676	568	9	21	0	3,280	5,956
女性	675	339	342	16	49	0	1,214	2,635
合計	2,077	1,015	910	25	70	0	4,494	8,591

2019年度(2020年3月末)



2021年度(2022年3月末)



・メンバー登録者数(重複登録あり):5,925人(2019) ⇒ 8,591人(2021)

【JLA-ID取得者】

メールアドレスを使ってIDを取得した方(都道府県協会に所属する必要無し) → 15,005名(20221014現在)

【メンバー登録者】

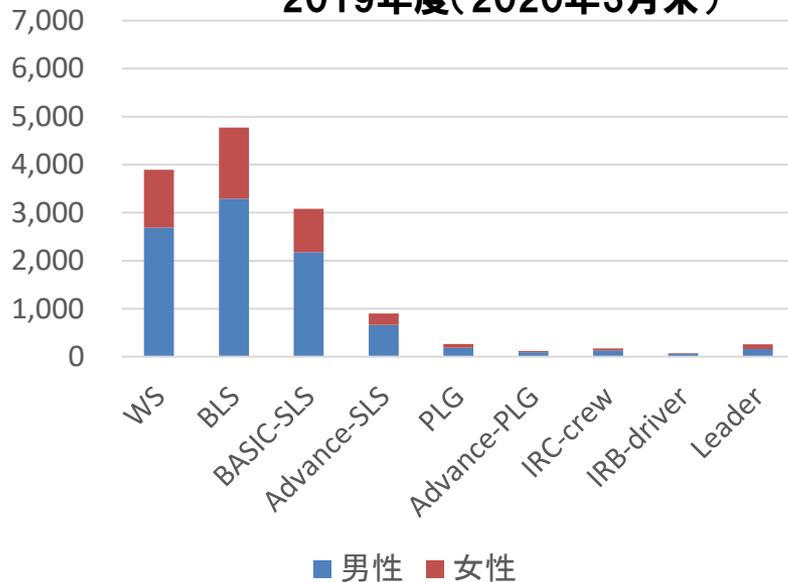
各クラブ、都道府県協会に所属している方(資格は無くても良い)

各資格の登録数(2019年度と2021年度の比較)

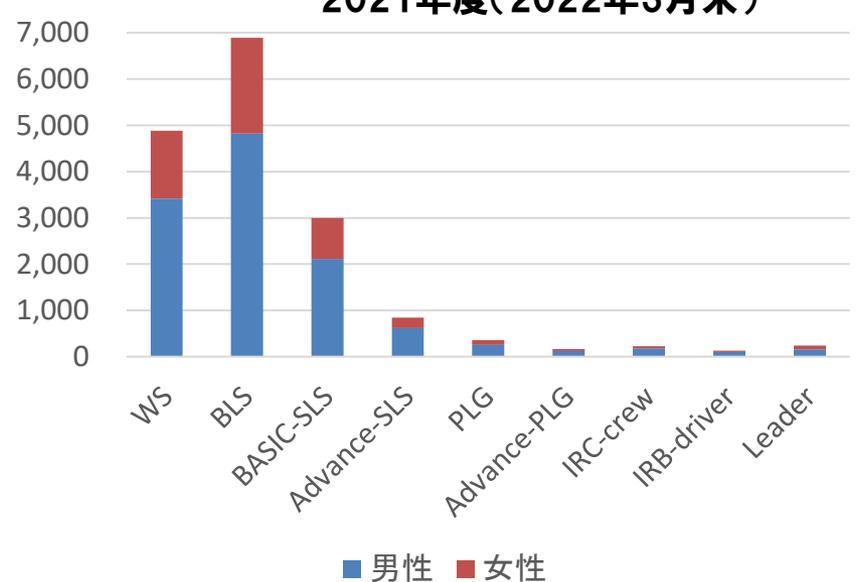
2019	認定ライフセーバー								
	WS	BLS	BASIC-SLS	Advance-SLS	PLG	Advance-PLG	IRC-crew	IRB-driver	Leader
男性	2,693	3,294	2,177	664	185	92	136	65	164
女性	1,203	1,476	905	237	80	32	41	10	99
合計	3,896	4,770	3,082	901	265	124	177	75	263

2021	認定ライフセーバー								
	WS	BLS	BASIC-SLS	Advance-SLS	PLG	Advance-PLG	IRC-crew	IRB-driver	Leader
男性	3,417	4,820	2,111	620	254	127	184	108	160
女性	1,461	2,067	887	226	103	38	45	22	84
合計	4,878	6,887	2,998	846	357	165	229	130	244

2019年度(2020年3月末)



2021年度(2022年3月末)

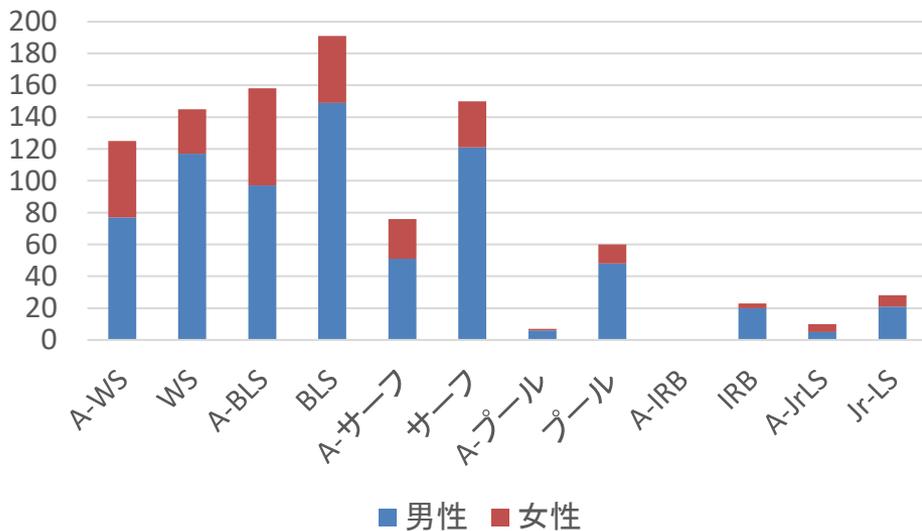


各指導員の登録数(2019年度と2021年度の比較)

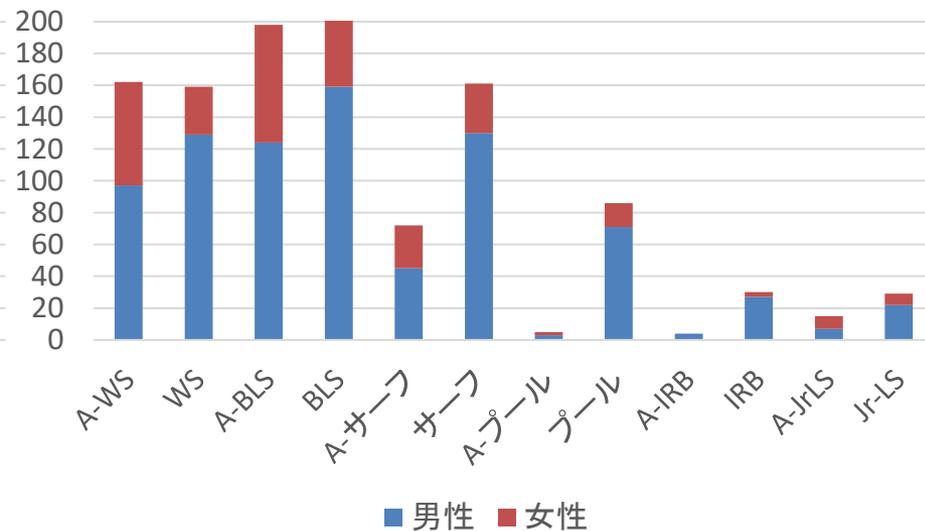
2019	A-WS	WS	A-BLS	BLS	A-サーフ	サーフ	A-プール	プール	A-IRB	IRB	A-JrLS	Jr-LS
男性	77	117	97	149	51	121	6	48	0	20	5	21
女性	48	28	61	42	25	29	1	12	0	3	5	7
合計	125	145	158	191	76	150	7	60	0	23	10	28

2021	A-WS	WS	A-BLS	BLS	A-サーフ	サーフ	A-プール	プール	A-IRB	IRB	A-JrLS	Jr-LS
男性	97	129	124	159	45	130	3	71	4	27	7	22
女性	65	30	74	47	27	31	2	15	0	3	8	7
合計	162	159	198	206	72	161	5	86	4	30	15	29

2019年度(2020年3月末)



2021年度(2022年3月末)

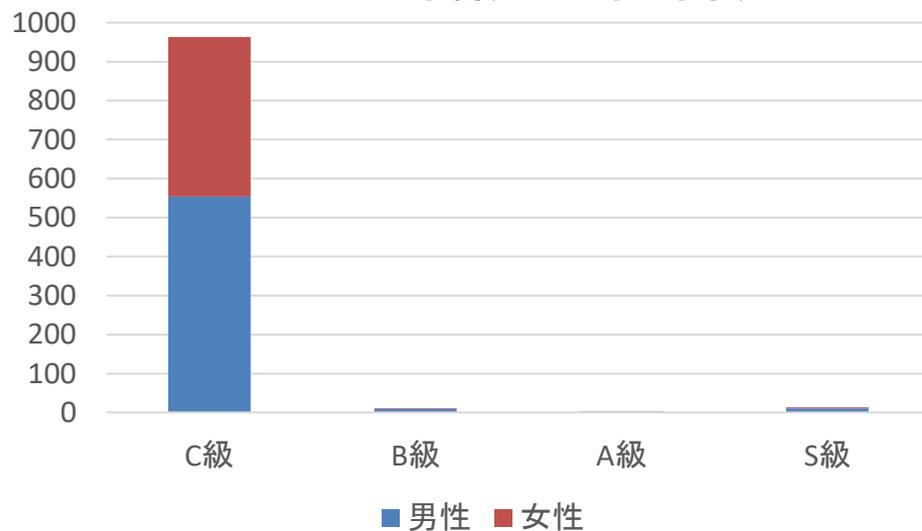


各審判員の登録数(2019年度と2021年度の比較)

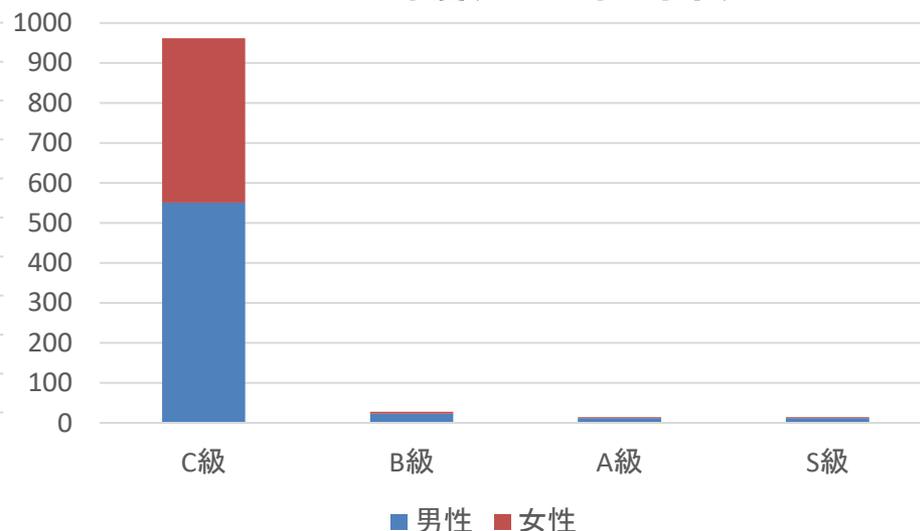
2019	C級	B級	A級	S級	合計
男性	554	9	3	11	577
女性	409	2	0	2	413
合計	963	11	3	13	990

2021	C級	B級	A級	S級	合計
男性	551	23	12	12	598
女性	411	5	2	2	420
合計	962	28	14	14	1018

2019年度(2020年3月末)



2021年度(2022年3月末)

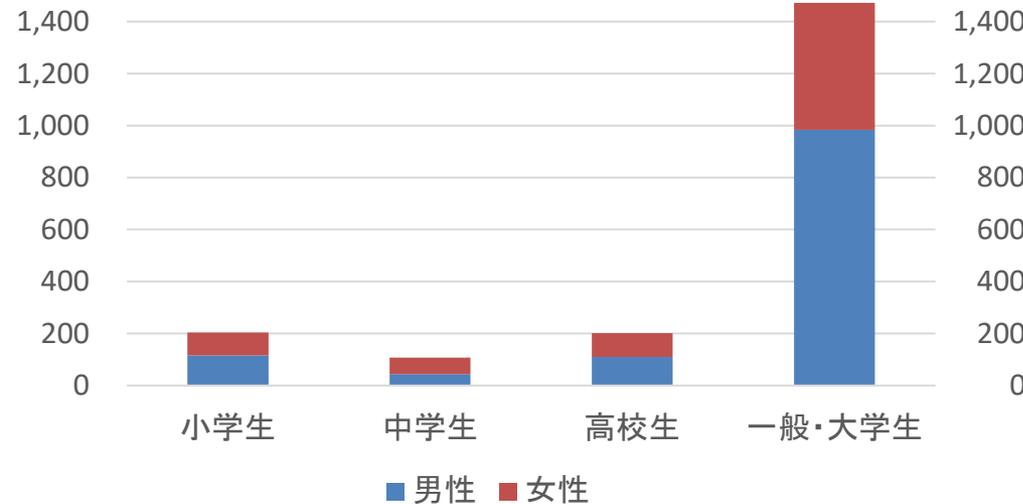


各選手の登録数(2019年度と2021年度の比較)

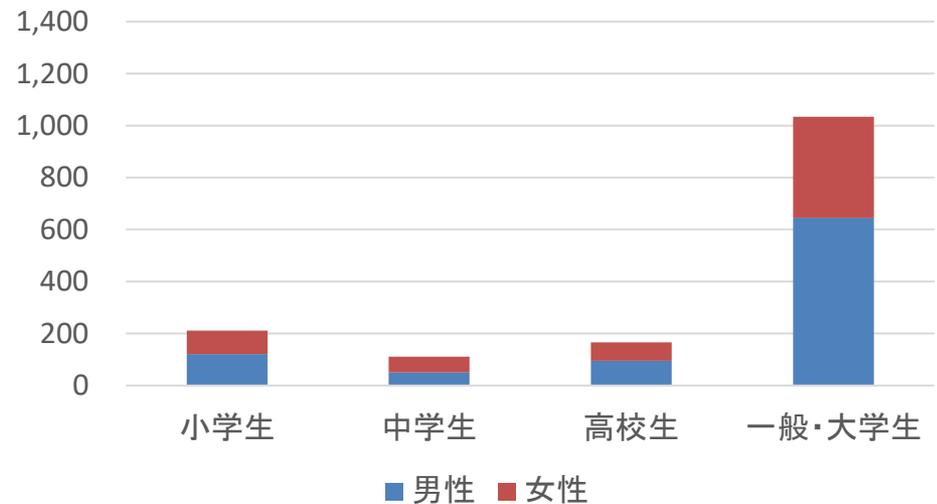
2019	小学生	中学生	高校生	一般・大学生	合計
男性	116	44	110	984	1,254
女性	88	63	91	488	730
合計	204	107	201	1,472	1,984

2021	小学生	中学生	高校生	一般・大学生	合計
男性	121	50	95	645	911
女性	90	61	71	389	611
合計	211	111	166	1,034	1,522

2019年度(2020年3月末)



2021年度(2022年3月末)



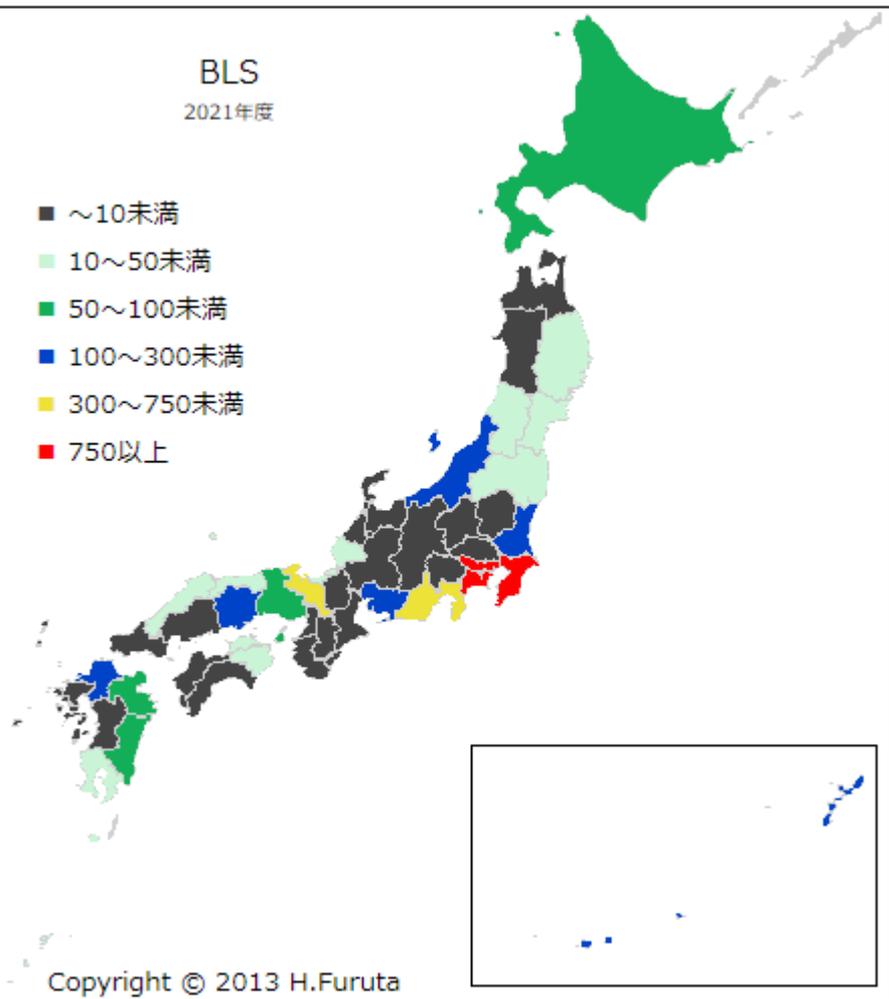
BLSとWSの都道府県協会別分布 (2022年3月:25都道県協会)

BLS分布：6,887人

WS分布：4,878人

BLS
2021年度

- ～10未満
- 10～50未満
- 50～100未満
- 100～300未満
- 300～750未満
- 750以上

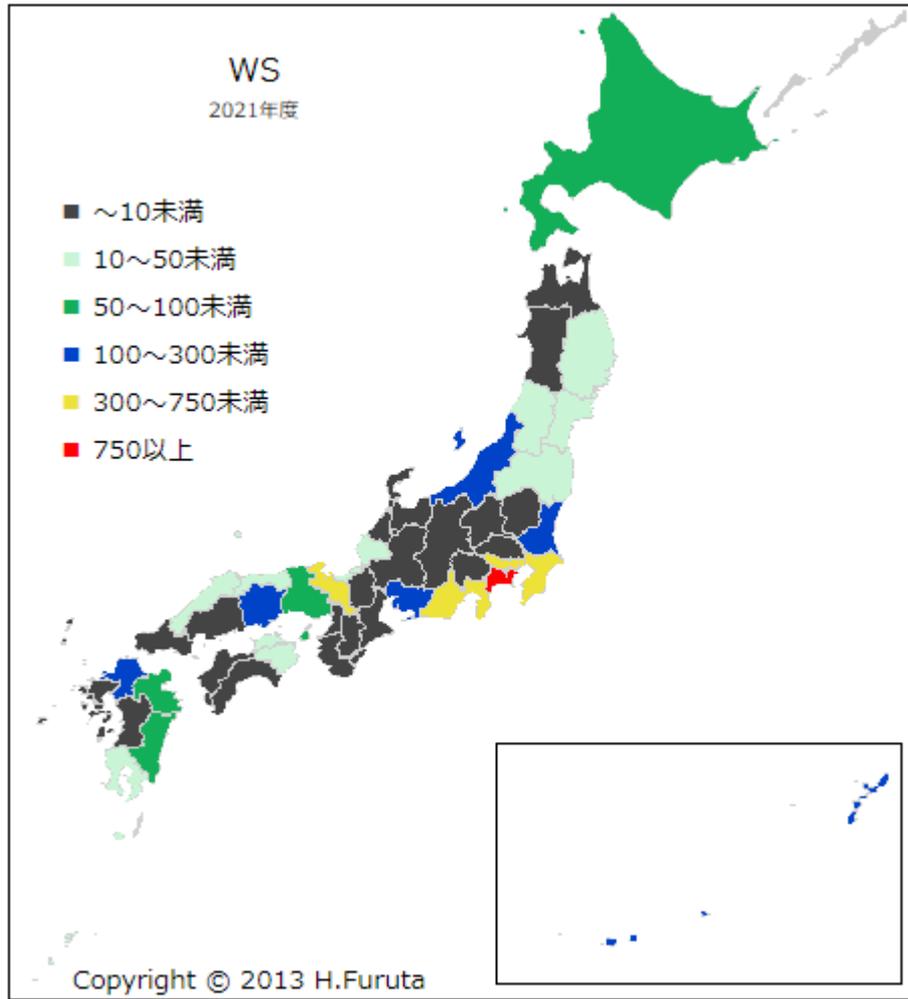


Copyright © 2013 H.Furuta

神奈川:1,584 東京:1,584 千葉:1,040
 京都:554 静岡:377 岡山:265 茨城:214
 沖縄:213 愛知:184 福岡:148 新潟:160

WS
2021年度

- ～10未満
- 10～50未満
- 50～100未満
- 100～300未満
- 300～750未満
- 750以上



Copyright © 2013 H.Furuta

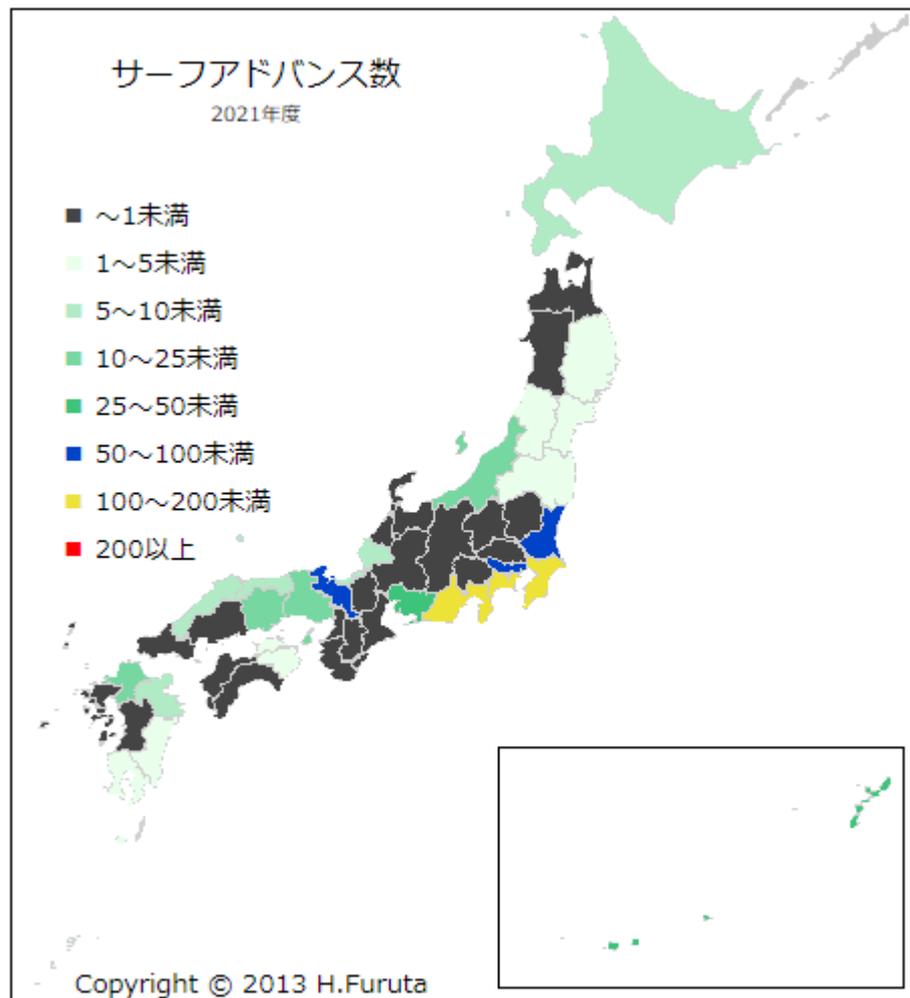
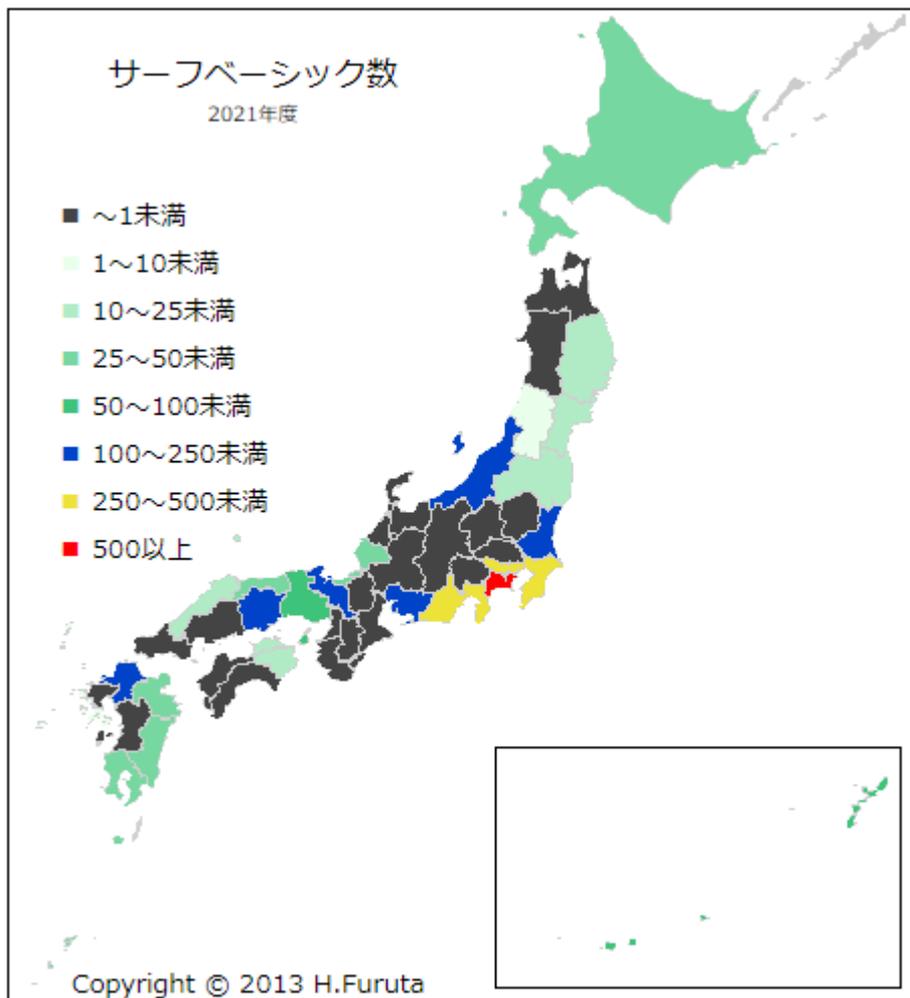
神奈川:1,074 京都:738 千葉:663 東京:505
 静岡:365 沖縄:217 岡山:184 茨城:170 新潟:144
 愛知:135

サーフBASICとADVANCEの都道府県協会別分布

(2022年3月:25都道府県協会)

サーフBASIC分布：2,998人

サーフADVANCE分布：846人

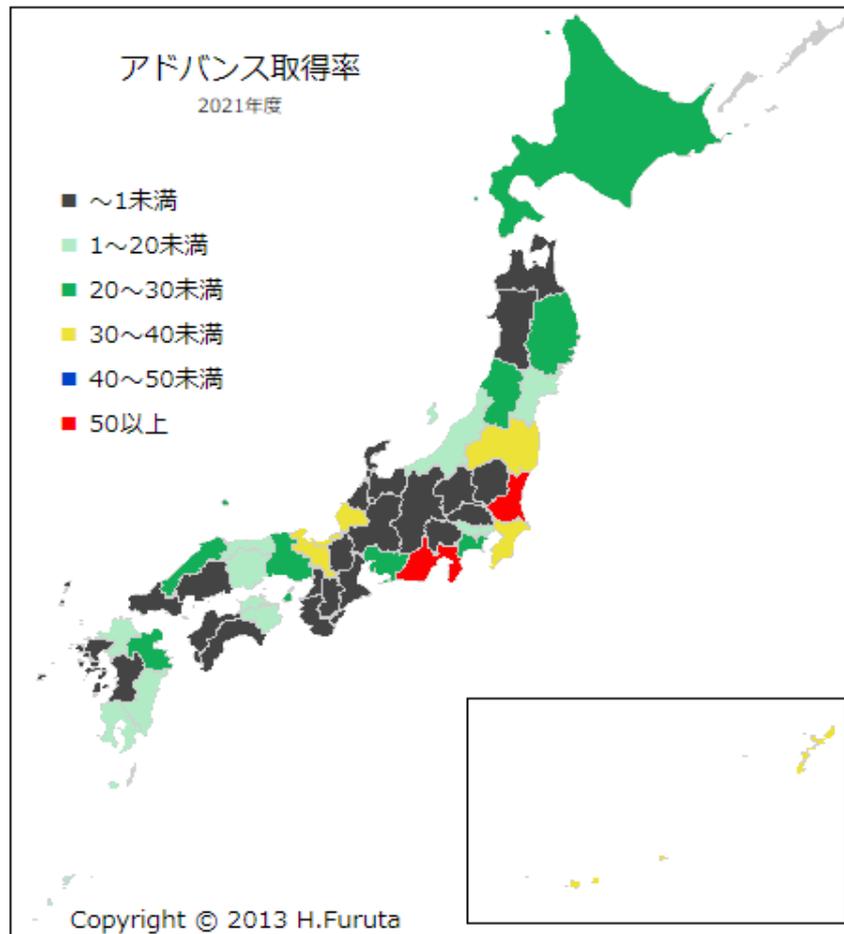


神奈川:689 千葉:426 東京:327 静岡:302
 京都:179 茨城:148 福岡:124 岡山:122
 愛知:117 新潟:104

静岡:173 神奈川:160 千葉:129 茨城:85
 東京:57 京都:56 愛知:32 沖縄:26
 岡山:20 新潟:18 福岡:16

サーフADVANCE取得率の都道府県協会別分布

サーフADVANCE取得率（ADVANCE取得数/BASIC取得者数）：**28.2%**



- ・茨城（57.4%）静岡（57.3%） → **非常に高い**
- ・福島（30.8%）千葉（30.3%）福井（33.3%）・京都（31.3%）・鹿児島（30.2%） → **高い**
- ・神奈川（23.2%）東京（17.4%）新潟（17.3%）岡山（16.4%）福岡（12.9%）
→ BASIC取得者は多いが、ADVANCE取得者が少ない

BLSインストラクターの都道府県協会別分布

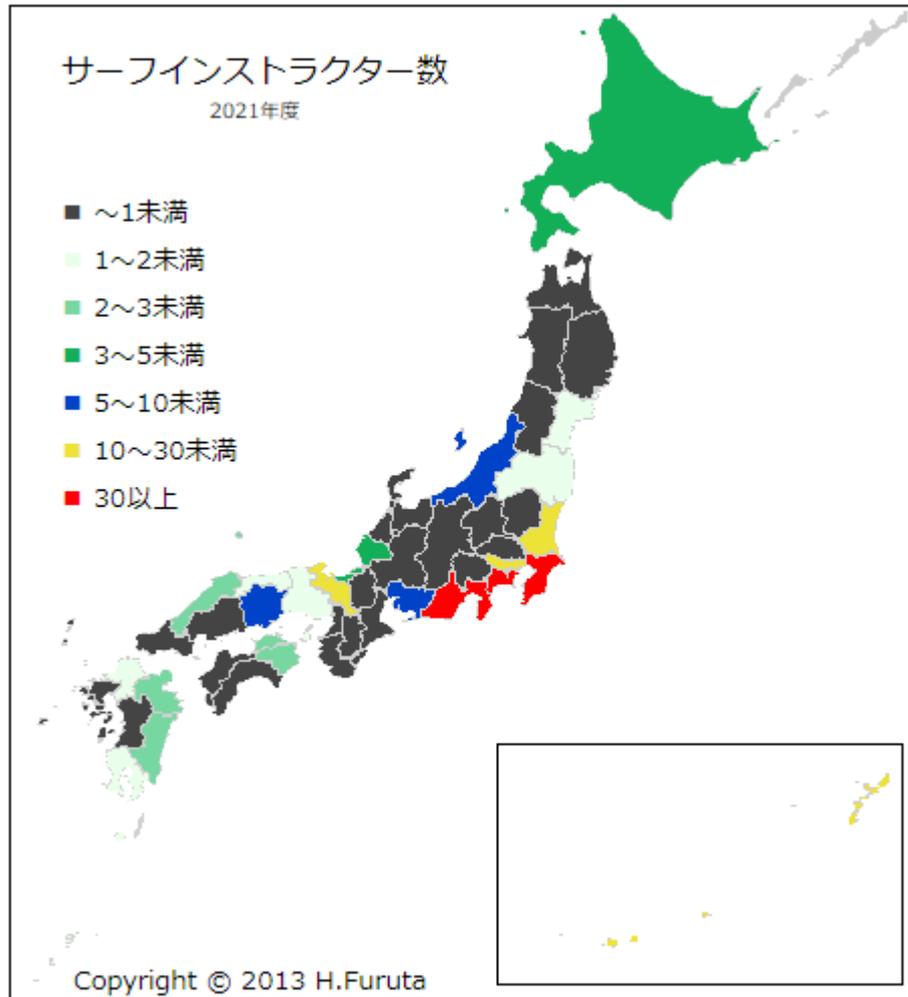
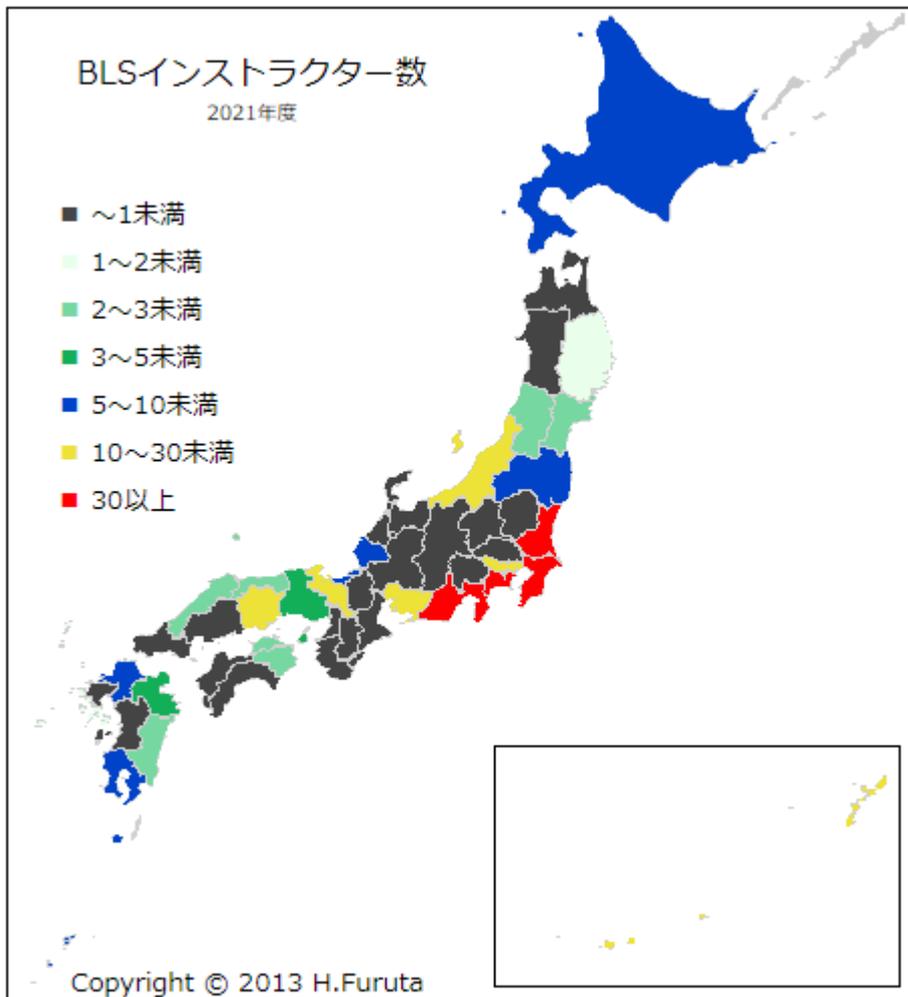
(2022年3月:25都道県協会)

BLSインストラクター分布：404人

*アシスタント含む

サーフィンインストラクター分布：216人

*アシスタント含む



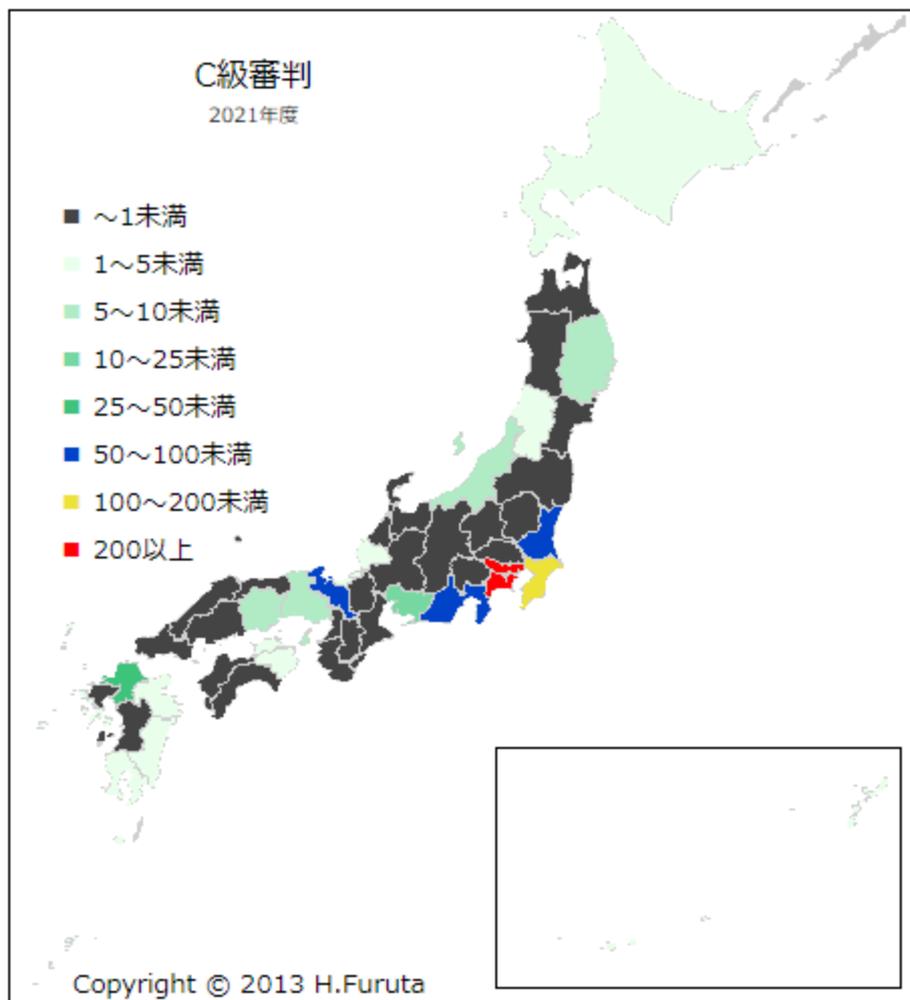
千葉:65 静岡:65 神奈川:64 茨城:38 京都:26
沖縄:25 東京:22 岡山:19 愛知:15 新潟:10

神奈川:50 静岡:41 千葉:35 茨城:29 沖縄:12
京都:10 東京:10 愛知:9 岡山:7 新潟:6

C級審判・選手の都道府県協会別分布

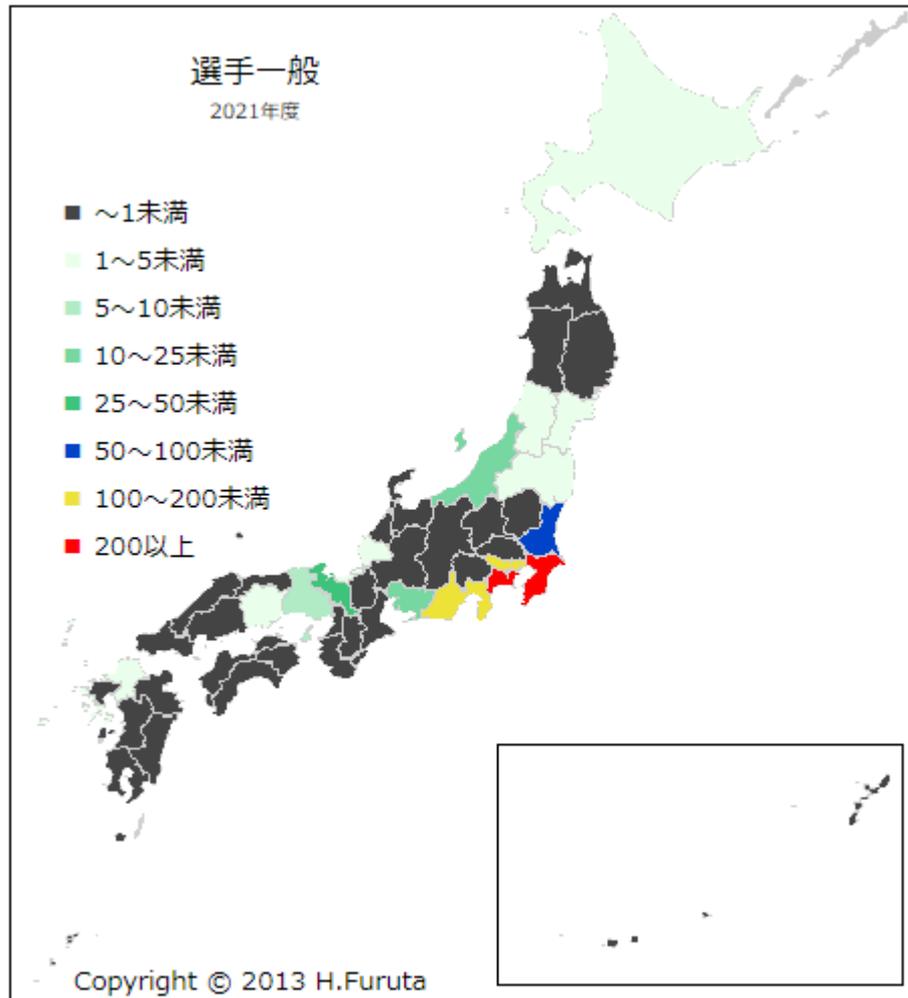
(2022年3月:25都道府県協会)

C級審判分布：962人



神奈川:255 東京:228 千葉:184 静岡:95
茨城:65 京都:51 福岡:30 愛知:13

選手（一般・大学）分布：1,034人



神奈川:255 千葉:206 東京:187 静岡:147
茨城:84 京都:44 愛知:20

日本におけるLSの現状

■日本の人口を約1.26億人とすると(資格取得者:88,716人)

→約1,420人に1人の資格取得者

■年間の海水浴客数を660万人(レジャー白書2018)とすると,

→単純計算でライフセーバー(資格取得者*BLS/WS含む)一人当たり約74人の海水浴客を対応(しかし日本の場合, 資格取得者が全員パトロール活動に従事しているわけではない. 実際にはその数倍の海水浴客を一人のライフセーバーが対応している)

■他の同種な活動との比較

○日本赤十字社救急法受講者:年間486,620人(2020年)

○日本赤十字社水上安全法受講者:年間67,408人(2020年)

○消防団員数:全国で804,877人(2021年)の団員が登録

■豪州では?

○SLSAメンバー:181,572人(2020-21年)*ジュニア含む(69,824人)

○パトロールメンバー:45,205人(2020-21年)

○ブロンズメダリオン所有者:40,713人(2020-21年)

○オーストラリアの人口を約2,550万人(2020年)とすると, 約140人に1人がSLSAメンバーであり, 約564人に1人がパトロールに参加している.

各データソース

①WHO（世界保健機構） Global report on drowning（2014）

世界各国の溺水事故に関する統計

http://www.who.int/violence_injury_prevention/global_report_drowning/en/

②厚生労働省 人口動態調査

日本における不慮の事故（溺水等）統計

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html>

③警察庁 水難事故

日本における夏期及び年間水難統計

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/souan.html>

③海上保安庁 海上保安統計年報救難統計

日本における海上での事故統計

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/doc/hakkou/toukei/toukei.html>

⑤消費者庁 子供の事故防止に関する関係府省庁連絡会議資料

子供の水難事故などに関する統計がまとめられている

http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/other/children_accident_prevention.html

⑥日本ライフセービング協会

レスキューレポートの統計

⑨日本ライフセービング協会

ライフセーバーズ登録数

■図表の作成

P2-34 JLAアカデミー本部

P38-53 JLAアカデミー本部

風間隆宏

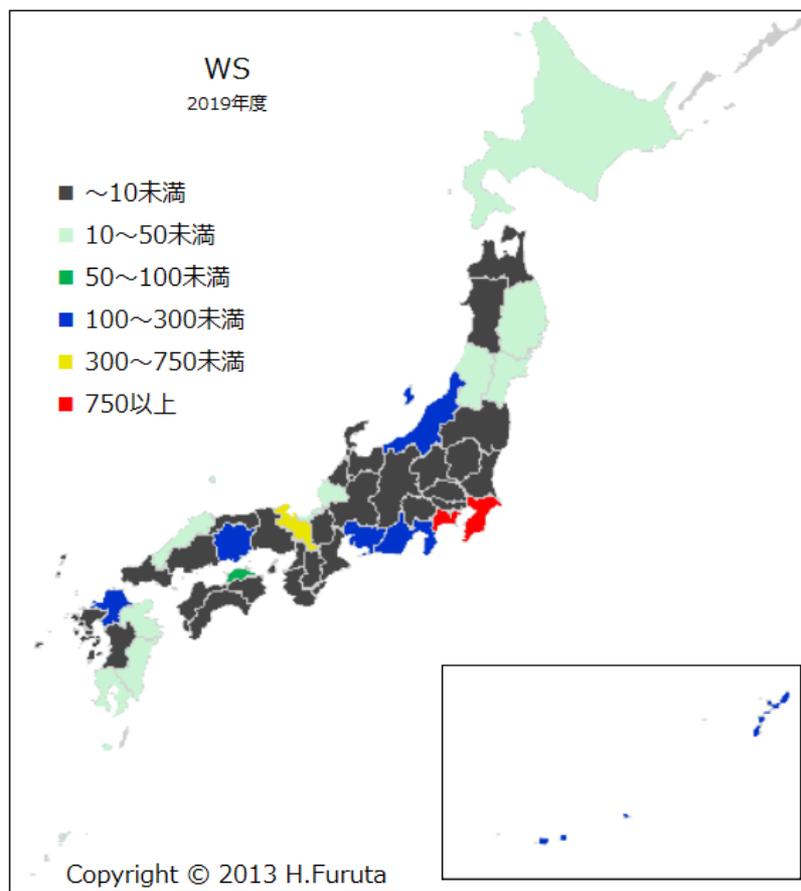
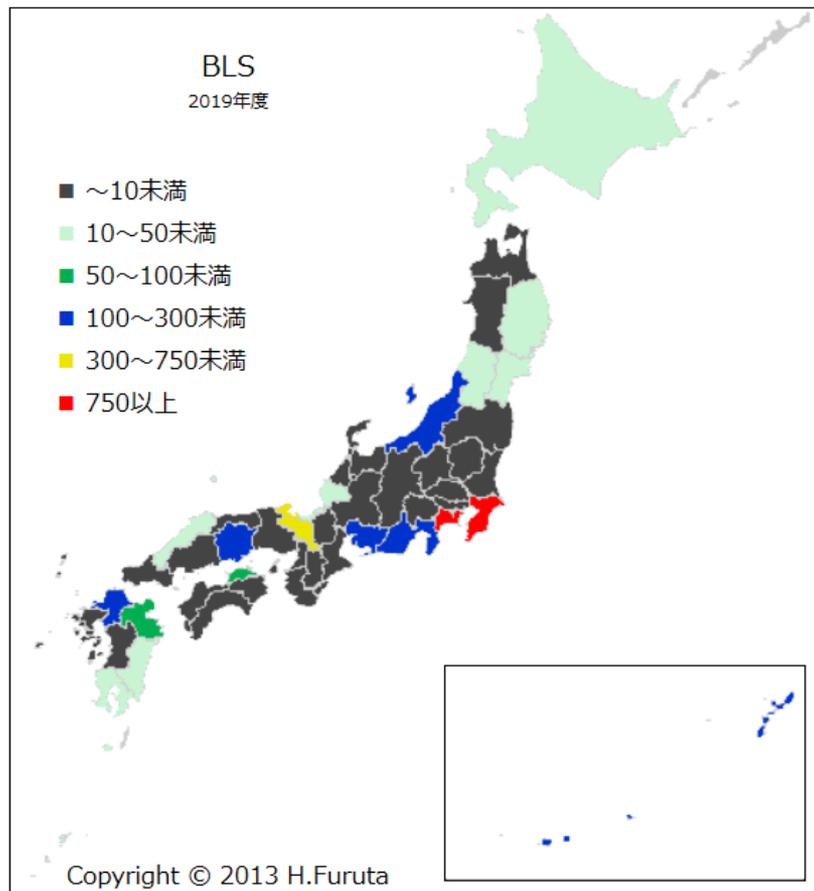
風間隆宏・佐藤洋二郎

2019年度データ

BLSとWSの都道府県協会別分布

BLS分布：4,770人

WS分布：3,896人

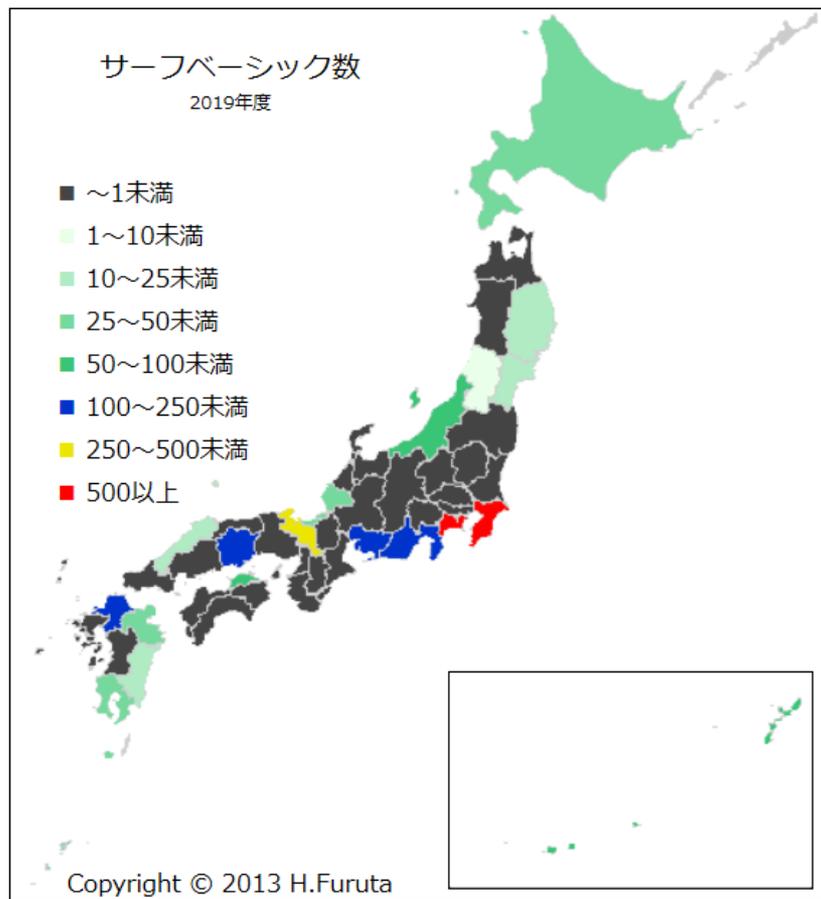


神奈川:1,851 千葉:1,080 京都:473 静岡:268
 岡山:198 沖縄:149 福岡:142 新潟:128

神奈川:1,258 千葉:821 京都:566 静岡:246
 沖縄:156 岡山:175 福岡:135 新潟:115

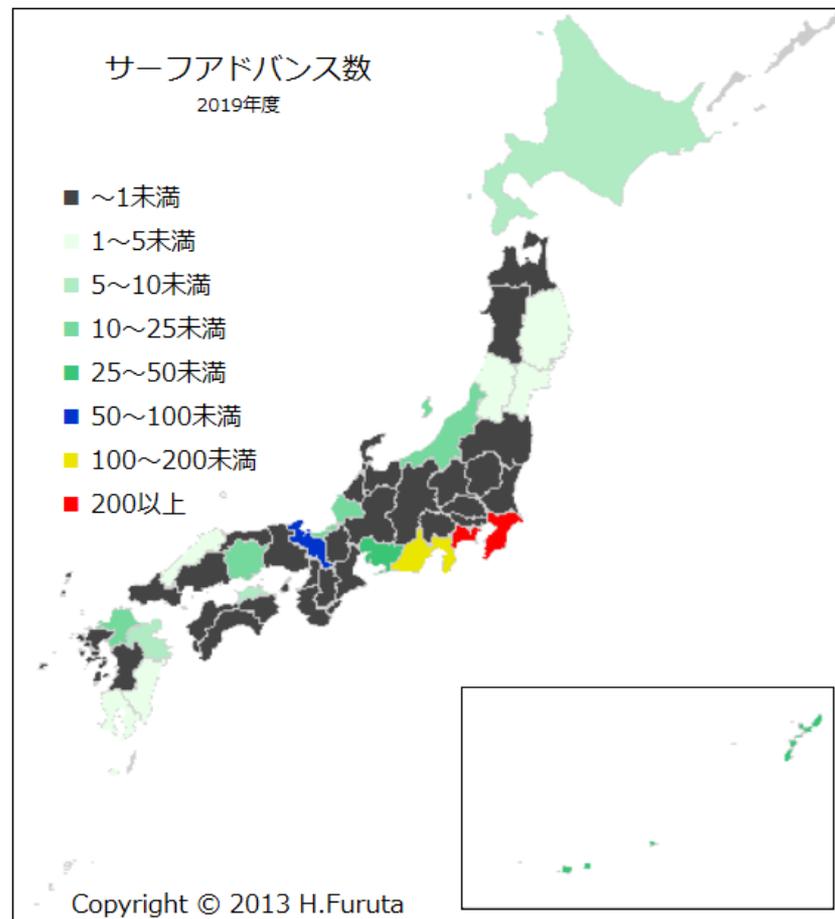
サーフBASICとADVANCEの都道府県協会別分布

サーフBASIC分布：3,082人



神奈川:1,041 千葉:717 京都:305 静岡:240
岡山:132 福岡:127 愛知:111 新潟:93

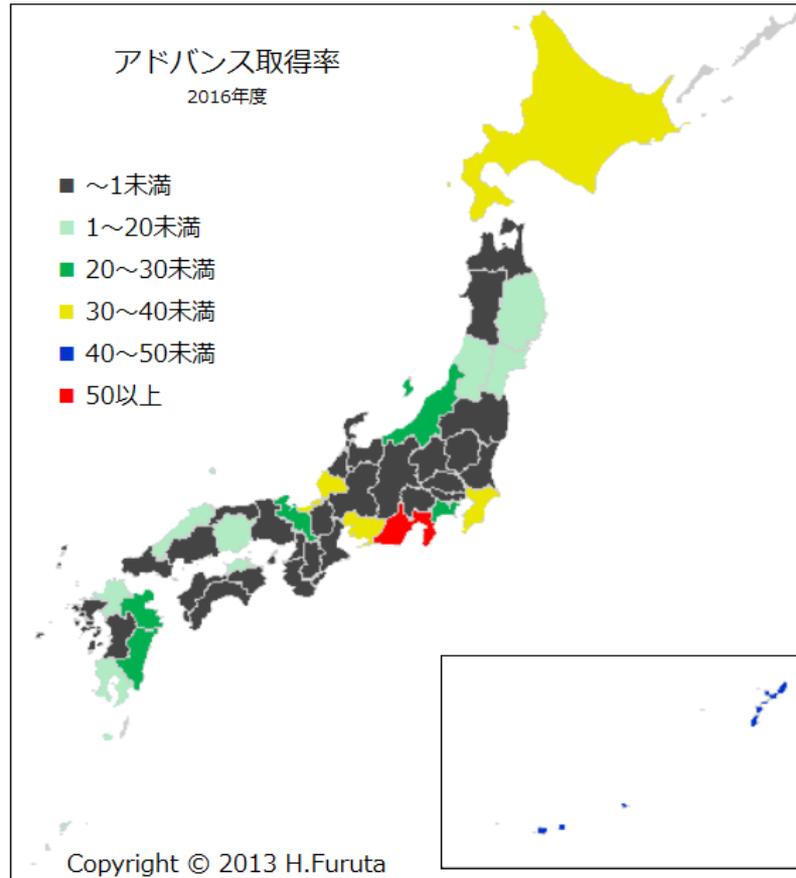
サーフADVANCE分布：901人



神奈川:273 千葉:238 静岡:146 京都:78
愛知:40 沖縄:25 新潟:19 岡山:18

サーフADVANCE取得率の都道府県協会別分布

サーフADVANCE取得率（ADVANCE取得数/BASIC取得者数）：**29.2%**

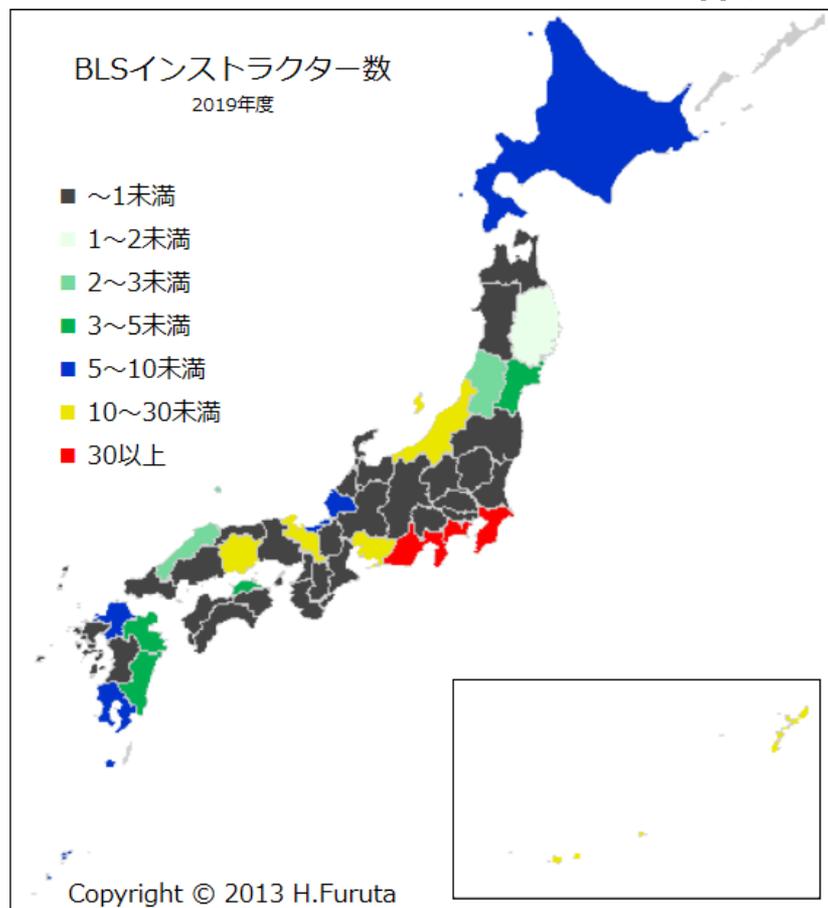


- **静岡 (60.8%)** **沖縄 (42.4%)** → **非常に高い**
- **愛知 (36.0%)** **千葉 (33.2%)** **福井 (32.4%)** • **北海道 (30.8%)** → **高い**
→静岡・愛知・千葉はBASIC取得者も、ADVANCE取得者も多い
- **神奈川 (26.2%)** **京都 (25.6%)** **新潟 (20.4%)** **岡山 (13.6%)** **福岡 (11.8%)**
→BASIC取得者は多いが、ADVANCE取得者が少ない

BLSインストラクターの都道府県協会別分布

BLSインストラクター分布：349人

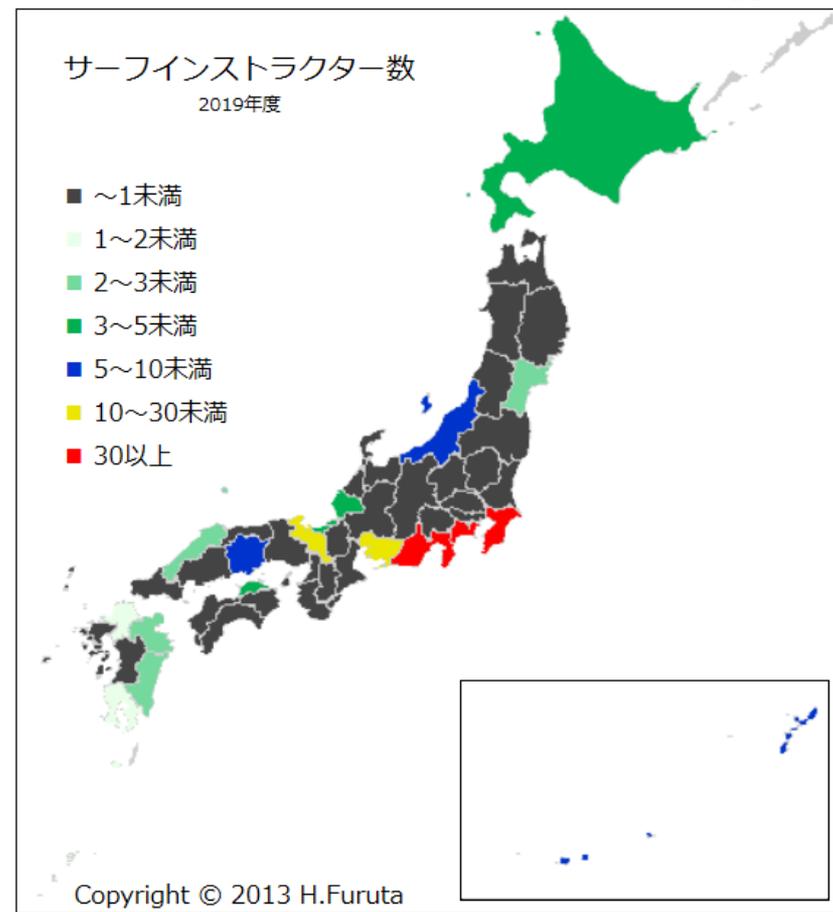
*アシスタント含む



千葉:87 神奈川:83 静岡:55 岡山:19
 京都:19 沖縄:17 愛知:15 新潟:12

サーフィンインストラクター分布：226人

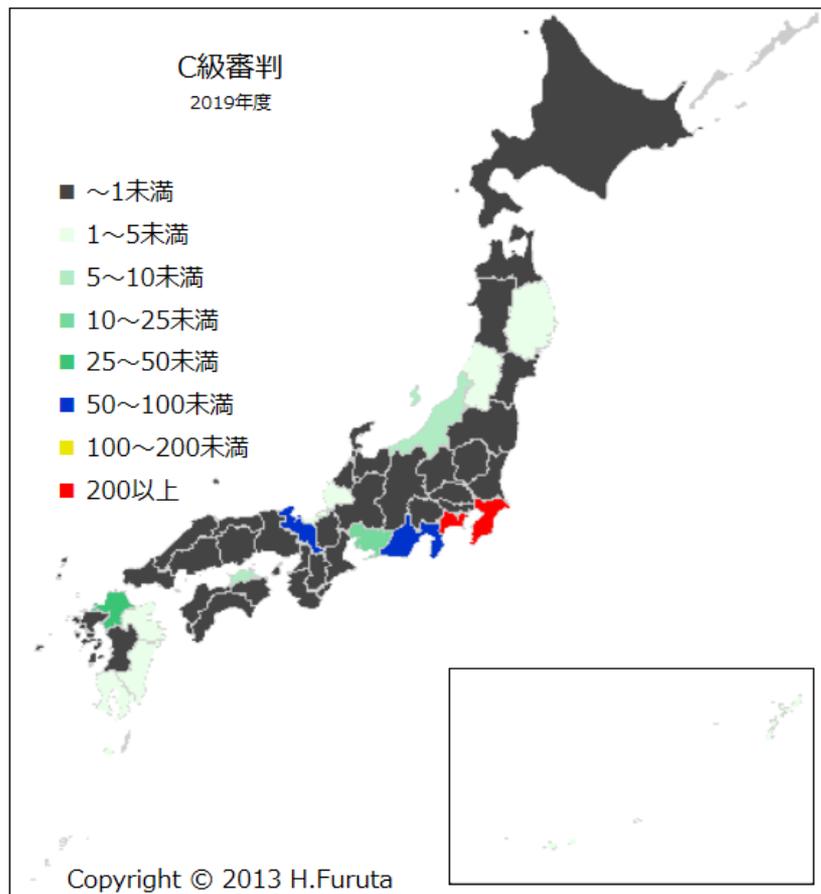
*アシスタント含む



千葉:63 神奈川:65 静岡:32 京都:11
 愛知:10 沖縄:9 岡山:8 新潟:6

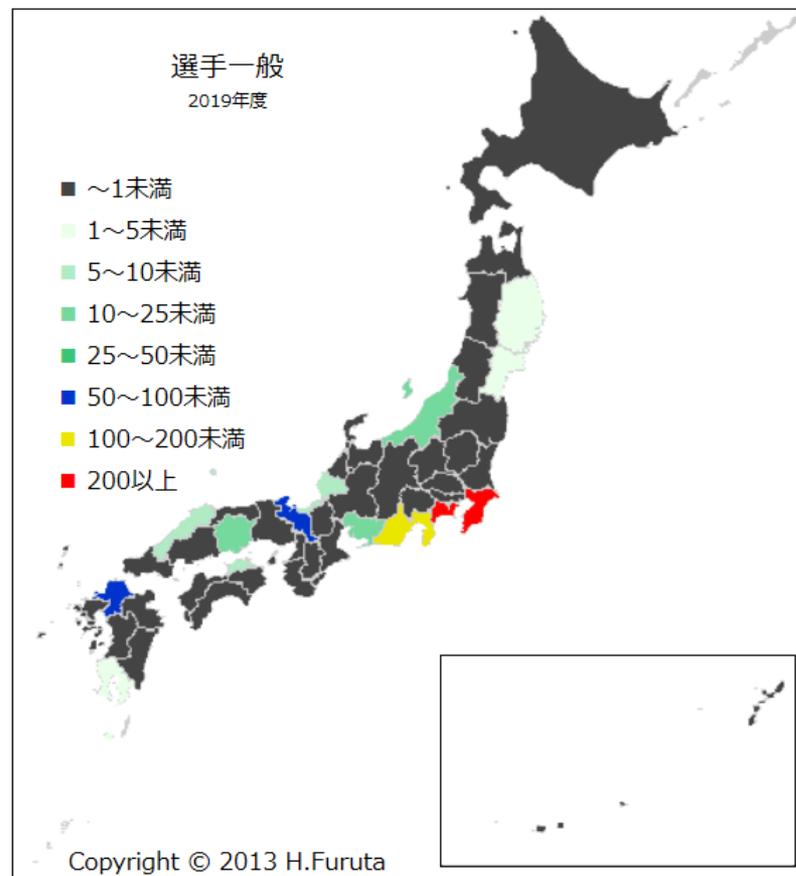
C級審判・選手の都道府県協会別分布

C級審判分布：963人



神奈川:479 千葉:251 静岡:86 京都:65
福岡:39 愛知:13 香川:9 新潟:6

選手（一般・大学）分布：1,472人



神奈川:661 千葉:437 静岡:150 京都:86
福岡:60 愛知:22 新潟:20 岡山:12